

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症予防教室や広報・行事・啓発等の取り組みを通して、認知症であっても主体的で安心した暮らしが地域との関わりの中で継続出来る様、地域の一員として生活の再構築が図れる様支援していく事を理念としている。	○	地域の方との交流や協力、サービス資源の活用で、家庭の中で抱え込む事がない様に当ホームも役割を模索している。又、地域で関わり自分らしさを発揮できる機会が持てる様に取り組んでいきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や各委員会で、年間事業計画やグループホームの方針を討議し、理念に基づいた支援をしている。施設内外の様々な活動を通して、持てる力を充分発揮できる様生活の再構築が図れる様生活支援をしている。	○	入居者が希望する主体的で意欲的な尊厳ある生活を送る事が出来る様、スキルアップの為の学習や研修・研鑽を重ね、更なる理念の実践に取り組んでいきたい。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会や行事、地域の方との交流・予防教室・啓発・広報等を通して、グループホームの理念や認知症の方を支援していく仕組みなどを理解して頂ける様取り組んでいる。	○	運営推進会議や家族会、又交流で出会った方や繋がりの中で、地域へ発信出来る事や利用者の生きがい作りに役立つことは無い意見交換を行い、取り組みを広げていく努力をしている。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	庭園は、近所の方や子供が散歩や遊びに自由に入出入りしている。又施設の無料循環バスが地域の便利な交通手段になっている。町内会活動や夏祭りや餅つき等行事でなじみの関係が出来、共に楽しんでいる。	○	行事や啓発活動へ気軽に参加して頂ける様、出合いやなじみの関係を大切に、積極的に輪を広げてゆきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会活動、広報誌の回覧、地域の方によるボランティア活動、行事の交流、幼稚園や学校との交流、実習生受け入れ、近隣市場での買い物、施設の無料循環バスのサービス等で親しい関係作りに努めている。	○	交流を深め、地域の中で利用者と共に活動する場が広がる様取り組んでいきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	学校や他施設、市や民間からの見学者や実習生を受け入れており、実習後は行事や活動にボランティアで参加される事もある。又ホームの取り組みを施設内外の勉強会で研修する機会があり、研鑽に努めている。	○	市が主催する認知症サポーター要請講座の講義依頼に努力した。今後は当ホーム近隣に活かせる活動に繋げたい。又、無料循環バスの利用で啓発活動や地域交流を模索し取り組みを活発にしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を業務や自身を振り返る機会とし、反省点や次の課題を討議しながら業務の見直しを行った。職員で意識やケアを統一し、利用者の生活の質を高めていける様取り組んでいる。	○	全職員で自己評価を点検し、課題に対する取り組みを検討している。意識の統一を図りケアを更に向上していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動の取組み・事業報告を行い、認知症の方を地域で支える為の活発な意見交換がなされ、助言を頂いたり互いの立場での生活やサービスの向上に役立っている。又当ホームや職員が地域で何が出来るか模索している。	○	委員の方それぞれの分野の知識や経験などを活かして頂ける様、当ホームも地域に根ざす開かれた施設を目指してサービスの向上に更に取り組んでいきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談員を受け入れ、客観的な意見を頂いている。又、運営・介護上の疑問点を介護保険課窓口を利用し、解決の糸口になっている。グループホーム協議会の活動では、介護保険課の方との意見交換会に参加した。	○	北九州市が主催している山田緑地での「森フォーラム」の実行委員として共同参画し、入居者、家族と共に自然を満喫している。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員や入居者家族を対象に、権利擁護や成年後見制度に関する研修を実施している。個別相談会で質疑や悩みに専門の方が応じている。又、必要な方や希望のある方は常時応じられる様支援体制を整えている。	○	今後も権利擁護や成年後見制度に関する知識や学びを深める為の学習会を定期的に開催していく。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会では、介護や接遇での何気ない言葉遣いや態度に潜在する危険もある事を学習し、虐待の予防に努めている。入居者の転倒・転落他危険防止の必要策を設ける際は、家族に説明し、同意書を頂くようにしている。	○	今後も定期的に学習会を開催していく。虐待行為を発見した場合の対応方法についても学習を繰り返し、周知徹底し意識向上に努めたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、契約書や重要事項説明書を提示し、説明を行い質疑の納得を得た後、同意書に確認印を頂いている。契約時は事業所の出来る事出来ない事や解約に関する事項について説明、契約改訂等の際は文書で根拠を示し説明・納得を得ている。	○	契約時の不安や疑問点や相談は、入居後もいつでもお受けできる旨を伝えている。今後も丁寧に対応しながら家族との信頼関係を築いていきたい。解約に関しては互いに十分に検討・協議を重ね、納得のゆく配慮で進めてゆきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	尊厳を持ち遠慮のない信頼関係を築いている。心身ともに快適であるか意志を伝え難い 方の表情や行動からも心情を推し量れる様努力している。介護相談員他家族や関係者の声 を拾いサービス向上に繋げている。	○	何気ない会話の中にも思いや意見がある場合 もあり、五感を働かせて受け流す事が無い 様、会議等で取り上げ原因究明や検討を行っ ている。文書で意見投函出来る方法がある という事も機会ある都度伝えている。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	主に面会や受診時に医療や生活の近況報告や 情報交換を行っている。入居者の絵手紙や電 話で近況を伝える事もある。金銭出納帳は定 期的に家族へ提示し内容を確認後押印頂い ている。家族会では生活や活動の様子を報告し 質疑応答に答えている。	○	季節発刊の「森の家だより」を配布してい る。又、ホーム内で撮り溜めた写真は家族が 来所された際に楽しめる様、順次整理してい きたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他、苦情、相談窓口や外部に よる受付機関他、介護相談員の受け入れ情報 を伝えている。家族会や面会、電話等で、日 頃から相談や質疑応答苦情の問かけをし、 遠慮のない信頼関係を築く努力をしている。 個々の相談は、速やかに対処し、経過を記録 している。	○	意見や苦情があった時は取り組みの事実を家 族会等で報告し、更に検討を重ねる等前向き にとらえている。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	入居者の受け入れや入居継続の可否につい ては全体会議で職員の意見を聞き検討後決定 するようになっている。又、月1回の職員会議 或いは必要に応じて話し合いや報告の場を設 け、現場での活発な意見交換が行われてい る。提案事項は内容により応じた現場で活か されている。	○	職員一人ひとりの日常の中から生まれた意見 や情報・新鮮な始点に立ったアイデア等が、 サービスの質を高めることに繋がった例が 多々ある。意見を出し合える環境を作り、出 た意見を大切に運営に反映していく（ス タッフ会議や申し送り時等）
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者や家族の方との心身の状況・変化等を 把握し、特変や緊急時に対応できる様、情報 を共有している。勤務や休憩時間はその時の 入居者や職員の現状況に合わせた臨機応変な ローテーションを3ユニット協力し職員間で 検討調整し実施対応している。	○	職員会議や申し送りで、入居者や家族の方の 状況の変化や、特変や、異常時の予測を行 い、速やかな対応が出来る様に申し合わせ を行っている。又、日頃から職員間の連携を大 切に過ごしている。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から職員とのコミュニケーションをしつ かり取り、管理者を通し状況を把握する。や むを得ず利殖になった場合も引き継ぎ期間を 充分取り、細かく申し送りをし、ダメージが 最小限になる様配慮している。職員移動は極 力少なくし、馴染みの関係で関われるよう になっている。	○	今後もスタッフの思いを吸い上げる努力をし、 離職の無い様に職場環境を整えてゆく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用募集にあたっては、性別や年齢を理由に採用対象から排除することは無い。又、差別無く安心して働ける職場環境を整えている。職員については、着付け・陶芸・料理等、各々の得意な事を仕事に活かしてもらっている。	○	採用時、着目するポイントは、表情（笑顔）、言葉遣い、認知症の方が感じていることや思いを感じ取れる感性、認知症の方の残存機能を引き出す感性があるかないかに着目している。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者及び職員共に基本的人権が尊重されるべきである。人権擁護に関する資料を職員に配布し自己学習後に研修を実施し、あらゆる人権問題に目を向け理解していくよう取り組んでいる。意識を高め、日常の中で入居者に対し人権を尊ぶ関わりをするよう啓発している。	○	人権の尊重はひと時も軽率に取り扱われる事ではない。自身を大切にする気持ちを他人に対しても持つ事が出来るよう、人権に対する意識向上を図っていく。人権研修は定期的な研修とする。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、サービス向上委員会を中心に年間計画を立て実施している。グループホーム協議会研修やその他の法人研修についても、積極的に参加し、その都度、他の職員にも、内容報告をしている。参加は、パート・正職の差別はない。	○	年2回、介護技術個人チェック表を付け、管理者及びリーダーは、個別現場実習計画を立て、全ての項目、出来る事を目指している。又、年2回自己評価表記入にて、自己を振り返る機会とし、管理者と共に、一人ひとり助言育成に関わっている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会・福岡県高齢者グループホーム協議会に加入しており、他のグループホームと交流しながら現状の課題や悩みを話し合う機会がある。	○	福岡県グループホーム協議会では、県全体と北九州ブロックの研修がとても盛んで、質の向上に繋がっている。年1回の実践報告会での発表も職員の意欲向上に繋がっている。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	週休2日制で、大体月に9日～10日の公休があり、ゆっくり身体を休めりフレッシュする時間をとるようにしている。休憩場所は、利用者と離れたスタッフルームにて休憩している。	○	利用者についての介護相談は、毎朝の申し送り、カンファレンス以外にも、いつでも話し合える様にしており、一人で抱え込まないように配慮している。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断は定期的実施している。体調不良時は併設病院にて受診、治療代は法人が負担している。また、就業規定があり、職員の労働基準は守られている。	○	各委員会（サービス向上委員会・感染委員会・アクティビティ委員会）があり、責任を持って各々が積極的に取り組んでいる。又、自分たちの取り組みをまとめ、早期認知症学会やグループホーム協議会実施報告会等、毎年発表し意識の向上を図っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	概要説明後、庭園や畑を案内し、自然を目にする事で安心感を得て頂き、リラックスした雰囲気の中で本人の心身機能や現状を把握して、不安や求めている事等、気持ちを良く傾聴し信頼関係が持てる様努めている。	○	入居による環境の変化に対応できる様、医療機関や利用者に関わる方々からの情報を得ると共に、利用者の話を良く傾聴し、行き違いの無い様に関わりたい。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム内外の見学等、リラックスした雰囲気の中で本人と家族の思いや関係性はどうか現状の把握に努め、求めているニーズや気持ちを探りながら信頼関係を築く。又、居住先を訪問したり、体験利用で安心感に繋げている。	○	家族と本人のニーズを区別してよく傾聴し、現状の把握に努めていく。
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容がグループホームのニーズに合っているか困っている事や要望等を確認しながら傾聴している。当施設は病院が併設し、介護の関連施設が数種あり、必要に応じた選択に繋げやすく、紹介もしている。	○	ニーズに対し出来る限りの対応に努めているが、必要に応じて関連部署や施設の相談員や地域包括支援センターに繋げながら連携を図りサービスに添えていきたい。
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に十分な状況把握を行い、希望により体験利用をして頂いている。入居後も趣味や役割を通して交流を図り、家族との関係が途切れない様面会をお願いしたり、本人のペースを大切に馴染みの生活に繋げられる様関わっている。	○	今後も利用者の現状に合わせ、本人の元に向いたりホームに遊びに来て頂ける様お誘いしたり、馴染みの関係作りをしながら支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や生花・畑仕事・おやつ作り等の得意分野に働きかけたり、筆で案内文を書いて頂いたり、市民センターの講座に出かけたり、クラブ活動を一緒に習ったりしている。共に作業をする中で楽しみや感謝や感動を共有・共感し、支え合う関係を築いている。	○	生花や料理・俳句作り・習字等昔、馴染んでいた一連の行為は、生活の再構築を図りながら、記憶が薄れる事が無い様、共感しながら一緒に楽しめる様大切に一日を積み重ねていきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会時に居合わせた入居者や家族同士が交流を図ったり、洗濯物たたみや散歩や活動を共に楽しんで頂く光景が見られている。お役に立てればとの事で行事等で活動のボランティアをかって出る方もある。	○	運営推進会議に参加して下さる家族もある。又、思いや時間に余裕のある家族の方や、入居者と共に活動出来る事を更に検討し取り組んでいきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時はホーム内での茶話会や居室・リビングでの寛ぎ、庭園の散歩や入居者と共に活動をしたり併設の喫茶店の利用を勧めたりしている。又、家族と一緒に写真を収めたり、遠方の家族への暮らしぶりの分かる絵・手紙や写真を送付したりする事もある。	○	絆を大切に面会時は本人と一緒に写真を撮ったり、思い出の場面作りを心掛けている。本人にとっては家族は何よりもかけがえの無い存在である事や、職員と共に本人の快適な暮らしを支え合っている事を伝えている。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や友人・併設施設での馴染みの仲間との面会や交流で、楽しいひと時を自由に過ごしている。又、遠方の家族や懇意な方からの電話や手紙を取り次ぎ支援している。行きつけの美容院や散髪屋・病院・お店等での触れ合いが途切れない様支援している。	○	入居者を取り巻く人や支えてきた人達の情報を知り、付き合いが末永く継続出来る様、電話や季節の手紙等で繋がりを支援していきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	性格の合いそうな方との仲間作りを支援したり、孤立しない様間に入って代弁したり、ハンデを持つ方も一緒に暮らしている事を理解出来る様支え合いを支援し、活動や団欒等で楽しみを持ち、感謝や譲り合いの気持ちが持てる様関わっている。	○	認知レベルや性格の合いそうな入居者同士が馴染みの関係で支え合える様に仲を取り持ち、孤立せず穏やかに暮らせる様、席や役割分担等活動の場に配慮しながら取り組んでいる。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後の家族が施設内のボランティア活動に足を運んで下さっている。又、空き状況や知り合いの方の入居について相談があり応じている。県外の郷里に帰られた元入居者の家族との音信、森の家の季刊誌を届けている。	○	併設の西野病院に転院した入居者の家族とは、付かず離れずの交流が保てている。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別特性シート・バックグラウンドシートを活かし、趣味や経験や得意な事が披露できる場面作りをし、生活の再構築に努めている。困難な方の行動や表情をセンター方式の一部を活用して思いを汲み取る努力をしている。	○	本当にしたい事や本人の思い、家族の願いやその人らしさに少しでも近づける様、関わる家族や友人、全ての職員で、言葉に出来ない入居者の思いを汲み取る様にし、サービスを形にしていきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別特性シートやバックグラウンドシート、出来る事分かる事シートを活かし、趣味の教室に通ったり書道や読書家、又料理通であった事等が分かり、地域の中でも継続した力が発揮出来る様情報を大切に支援している。	○	生活歴を把握できない場合は家族の許可を得ながら昔をよく知っている親類や友人・近所の人達に丁寧に働きかけて、情報を伝えて頂けるように努めたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居後や退院後・特変時は1日の時間を追った行動記録表を作成して、体調の変化や1日の生活リズムの把握をしている。又、暮らしの中で出来る事や分かる事等の気づきや情報を申し送りや会議で検討・共有し、残っている力を引き出せる様に関わっている。	○	関わる職員が家族や取り巻く方々と気持ちをつなげて全体像を把握し、出来る事や分かる事・興味ある事を常に引き出し、出来る様、感度を高くして対応すると共に、疾患に関する学習も進めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	取り組む種々な方の連携で、本人家族の意向を情報収集、カンファや会議の中で、生活の再構築が出来る様具体的に明確な支援を組み立てている。その方らしさが反映された介護計画を作成し、本人家族の承諾印を頂いている。	○	心身に変化があった時は、家族や本人を知る方からも気づきはないか、生活や医療に関する意見や希望・情報・リスク等を共に再検討し、介護計画に反映していきたい。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、又、入居者の心身状態に変化があった時等、随時モニタリングを行ない、介護計画の見直しや変更をしている。家族の方にも確認して頂き、意見や意向に添った見直しで、現状に合ったものを作成している。	○	介護認定の期限切れで新たな変化や要望が見られない場合も見直していく。介護計画が現状のケアサービスとずれていないか随時確認していく。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の医療内容や心身の変化は個別の看介護記録簿にSOAP方式で記述しており、当日の活動は、気付いた場面や様子を具体的に記録し、次の支援に役立てている。又、活動の様子を写真に収め介護計画の記録としてパソコンに残す様にしている。	○	介護計画は、具体的なケア内容が見えているか、又、次の実践にどう活かされているのか分かる様に記録し、継続して検討・工夫を重ねていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療連携体制を整え、訪問看護による健康観察や医療相談、状況に応じた看護処置等を実施し、本人や家族職員の安心感を得ている。入居者の入院時は訪問看護と共に医療機関・家族と検討しながら早期退院に向け支援をしている。	○	重度化や終末期のあり方が本人・家族にとって後悔の無い穏やかなものである様、事前に或いはその時々で医療機関・家族と密に連携を取りながら希望に添えるよう一緒に検討していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署による防火訓練、商店からの移動販売、移動美容室、図書館利用、ボランティアやSOSネットワークの協力体制、他民生委員や運営推進会議等でグループホームの取組みや認知症の理解と啓発を通して協力を得ている。	○	常に理解・協力をお願いし、地域の中で一緒に出来る事は無いか探していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者や家族の意向に応えられる様併設病院や状況に応じ施設の相談員やケアマネージャーと連携を持ち、ニーズに合った選択が出来る様関わっている。又訪問マッサージや福祉用具の事務所の紹介・クリーニング・遊園地、他公共の交通機関等を利用している。	○	快適な暮らしやその方の希望を見出す努力を重ね、地域の中で活動し社会参加出来る様に他のサービス事業者と連携し、質の向上に繋げていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員に権利擁護に詳しい方や民生委員、地域包括支援センターの方が参加されており、グループホームや地域での実情に対し問題提議された事や事例を通して意見交換し、各参加者と共に協働して頂き、心配事の解決に結びつく資料を頂いたり個別の相談に応じて頂ける体制がある。	○	権利擁護や認知症のサポーター養成講座・長期的なケアマネジメント等、認知症を地域で支える為の専門知識や解決策は地域包括支援センターの応援を頂き、連携を図りながら取り組んでいきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や希望する医療機関を最優先して頂いているが、無い時は併設西野病院が利用出来る事を説明し、医療の協力病院の利用についても入居時や適時、家族に伝えて、納得出来る受診をして頂いている。受診後の情報は家族と共有し、状態の把握に努めている。	○	家族が受診に付き添う際は、情報をメモにして伝達している。都合によりスタッフが付き添う場合は、受診前後の様子等を詳細に報告し、経過や検討した事柄は記録に取っている。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設西野病院の物忘れ外来や知見に詳しい専門医による受診が出来、適切な薬の処方や生活面での関わり方等助言を頂いている。又、認知症に理解のある協力歯科医院に状況に応じた往診をして頂き、入居者・家族から信頼を得ている。	○	併設西野病院では定期受診や異変時等適時、専門医による受診や相談で現状の把握をして頂いている。認知症の方と馴染みの関係にある訪問看護とも連携し安心感や信頼を得ている。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間連携で訪問看護による入居者の健康管理を行い、日常的な心身の状態把握をして頂き、馴染みの関係が築けている。又、介護職で出来ない医療処置や判断に戸惑う医療・生活の相談に応じて頂いており心強さがある。	○	入居者の現状に応じた病気の知識や事故の手当て、医療や介護のリスク等のミニ研修も実施し、スキルアップに役立っている。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の目的を早期達成して頂ける様、家族と医療機関でスムーズな退院に繋がる様検討を重ねている。入院中のストレスや精神不安の軽減が図れる様、なじみの入居者・職員が見舞いに伺ったり、併設病院の許可を得てホーム側に訪問して交流する事もある。	○	併設西野病院は庭園の延長にある為、馴染みの入居者も散歩がてらに見舞いに行っている。入院の経過や、退院後のケアについての情報交換もスムーズに行いやすい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化の指針について説明し、重度化や終末期に対する意向を確認させて頂いている。状態の変化を家族と共有し、関係する医療機関や24時間訪問看護できめ細やかな支援や、職員会議等で意識やケアの統一を図る様にしている。	○	終末医療に関する研修会に家族の方も参加して頂き、事例や予測を通して、医療に関する事やホームで出来る事や家族で出来る事等、意見交換を行っている。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化に適時対応出来る様、細やかな様子観察を行い、病気の知識について学習したり予測を検討しながらケアを統一している。意向を確認し、対応可能な事は最大限に支援し、困難な事や出来ない事への早めの検討で納得を得られる様支援している。	○	他の入居者の影響も念頭に入れ、ホーム側のみでなく家族の出来る事・出来ない事も見極め、本人の意に添える最大限の支援をしていきたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先との連携や情報交換を、相談員やケアマネジャー・家族と共に検討していく。築いた生活の再構築等は、継続出来る様にケア情報を詳細に伝え、配慮して頂けるよう働きかける。	○	住み替え先の訪問や密な連絡で、医療や生活情報を伝え、検討していく。本人や家族の意向を確認しながら環境の変化による混乱を軽減し、スムーズに移行出来る様支援していく。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や人権研修の学習会を適時実施し、守秘義務について周知し、言葉掛けや態度に尊厳ある接遇が出来ているか再確認している。又、職員は人権の尊重について自己評価を行い、自分自身を振り返る機会を設けている。	○	気付かないうちに入居者や家族の事を話してしまったり、意識していても業務の流れに任せて心ない言葉掛けや介護をしていないか、自身を振り返る為に繰り返し人権や接遇の研修や個人情報について学び、意識の向上を図りたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	家事活動・趣味やクラブ活動で、具体的にしたい事を自由に選択して頂ける様関わっている。又、日常の洋服選び・化粧の有無・入浴時間・嗜好品等自己決定の場は多くあり、笑顔や良い表情を引き出せる様場面作りを支援している。	○	選択しやすい様に意見を傾聴しているが、言葉で表せない方の表現や態度から好みや希望を汲み取れる様、職員の都合になっていないかを省みて、本意に添える生活支援をしていきたい。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の様子やその日の体調に配慮しながら、家事や趣味活動等を希望に添って自由に楽しんで頂いている。家族との面会や外出を本人のペースで楽しめる様情報交換し、楽しみのある暮らしを支援しており、門限も特にない。	○	業務や職員の都合にならない様、入居者本位である事を意識して、やりたい事が個別のペースで楽しめる様見守りながら、家族と共に楽しみのある生活を支援していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出や行事の際は普段しない方へも化粧やおしゃれに関心が持てる様に声掛け支援し、周囲の方々と共に装いの気付きを語らい和んでいる。又、訪問美容室や行きつけの理美容院で希望の髪形に整え喜ばれている。	○	普段着が片寄らないよう、おしゃれに気を遣い、心地よい日常を過ごせる様支援していきたい。重度の入居者もエステや化粧・おしゃれで良い表情が見られている。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭園の野菜も使用し、献立作りや調理法・昔話や季節の話題に繋げている。買い物と共にし、役割分担や得意な作業で調理を行って頂いている。食事は和やかな雰囲気作りを心掛け、同じ食卓で共に食事を楽しんでいる。	○	体調やその日の生活リズムに配慮して、本人のペースを大切に、会話が弾み楽しい作業になる様に対応していきたい。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	外出や行事でビールやワインを嗜み、表情を良くする入居者がいる。おやつタイムでは、好みの飲み物を選択する事もある。併設の売店や移動販売で果物や菓子・嗜好品の買い物で楽しみを持つ方もあり、個別に支援をしている。	○	遠慮なく馴染みの嗜好品を手にする事が出来る様支援していきたい。煙草に関しては、施設内禁煙であり、他者への配慮や防災に注意しながらルールに添って職員が関わりながら寛いで頂く様にしている。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙パンツやパットは、体調や外出時・夜間帯の加減で検討しながら使い分けている。体調不良時は排泄チェック表を活用し、排泄調整や誘導に役立っている。失禁対応はさり気なく行い清潔保持に努めている。	○	現状に合った排泄支援をしているか常時検討・確認しながら、オムツ使用に至らない暮らしが出来る様見極めていきたい。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	状況に応じた個別対応で、安全に入浴を楽しめる様見守りや介助を行っている。入浴剤に変化を付け、花卉やユズ・菖蒲を入れたり、入浴できない日は清拭や足浴を行っている。入浴拒否には場面転換や個別対応で工夫をしている。	○	職員の都合で入浴が困難になる事があるが、翌日のチームプレイや個別支援で入浴を楽しめる様配慮している。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方を考慮し、昼夜メリハリを付け生活のリズムを整える様にしている。体調不良や一人でいたい時は自室で自由に過ごし、散歩や活動後はお茶等で寛いで頂き、不眠の方は会話や足浴や温かい飲み物等を工夫しながら支援している。	○	不眠の原因が関わる職員の側にはないか、入居者の生活環境を乱すものはないか等よく洞察し、程度によっては医師や訪問看護にも相談しながら解消に繋げたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や好み、趣味に応じた活動や得意分野で力を発揮して頂いたり、花や植木の水やり生け花、畑の世話、食事作りや洗濯たたみ等役割意識を持った活動で、その方の楽しみに繋がる暮らしを支援している。	○	家族や入居者に近い方からも、潜在している楽しみ等を更に見出していく。又、地域の中にも出てゆき、感性を刺激した豊かな生活支援をしていきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布を持つ事で安心感があったり菓子等を購入して楽しんでいる方もある。買い物に同行して頂き個別に支払いをお願いしたり、馴染みの入居者同士にお任せしたりと、その方に応じた財布の取り扱いの支援をしている。	○	外出や買い物・馴染みの店での店員との会話等で社会との繋がりを大切に、入居者の出来る力に合わせた支援を工夫し、楽しみのある生活をしたい。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内は毎日の庭園散歩や併設西野病院の売店や喫茶店の利用が出来、気分転換を図っている。入居者の希望を引き出しながらスーパーや百貨店へ買い物に行ったり美術館や公園や海や山・外食等外出の機会を作っている。	○	入居者の家族の個別の希望が実現出来る様によくコミュニケーションをとり、些細な事でも支援に繋がられる様配慮していきたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方へは入居者との思い出作りを働きかけている。家族の方へは入居者・家族の家に宿泊したり馴染みの方に会いに出かけたりお墓参りや遠方へ外出する機会がある。又、歌舞伎やミュージカルを観に行ったりと楽しんでいる方もある。	○	入居者の家族の個別の希望が実現出来る様によくコミュニケーションをとり、些細な事でも支援に繋がられる様配慮していきたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や記念日に便りや小包があり、折り返しお礼の電話やハガキを送っている。遠方の家族や親族の方や近い方との関係が途切れない様、取次ぎの支援をし、季節の挨拶状や絵手紙を、出来る力に応じて職員が補足しながら個別に支援している。	○	頻度の少ない入居者もあるので、家族と本人の関わりに丁寧に働きかけながら楽しみが持てる様支援していきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間等決まりはなく、自由に来所して頂き遠慮なく寛いで頂ける様案内している。敷地内の喫茶店やホーム内の茶話会・散歩・活動の自由な参加で共に楽しんで頂いたりしている。入居者の個室に宿泊される事もある。	○	訪問の際、いつでも居心地良く自由に過ごす事が出来る様、職員との温かく遠慮の無い関係を持続していける様コミュニケーションを密に対応していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や抑制廃止について研修を行い、弊害やリスクについての意識向上を図っている。車椅子や歩行困難な方の見守り外での転倒・転落・認知力不足の為の危険行為回避について、医療関係者や療法士等への相談と共に対応や工夫を検討している。	○	対応困難で安全第一に配慮した場合、家族への説明と同意を得て拘束せざるを得ない事もあるが、職員が弊害やリスクをよく理解する必要がある。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけず、玄関はチャイム音で出入りが解る様にしており、入居者の所在確認を常に意識している。施設部署間の連携で離苑者への見守りを実施し、離苑でホームに戻れない方への対応として、SOSネットワークへ協力依頼を行っている。	○	近隣でのなじみの関係も増えており、離苑者を見かけた際の思いがけない声掛けや連絡を頂く事があり、地域との繋がりを大切に生活したい。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日頃の関わりを密にし、職員の見守り外に居る入居者の所在確認と度々の声掛け等で、常に入居者の現状把握をしている。精神状態や行動の予測や察知をし、五感を働かせてリスクに対する意識を持ち安全に配慮をしている。	○	入居者の心身の状態を把握し、行動を見守り、職員の連携で全体へ意識を向けた気配りで安全に配慮していく。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	マニュアルに添って危険を防ぐ配慮をしている。入居者の自発的な行動を妨げる事がない様物品の把握をしつつ、見守りながら錠・包丁・洗剤等を自由に使用して頂き、使用后や夜間は目に触れない様、場合によっては施錠保管している。	○	入居者の現状に合わせて歯磨き粉や芳香剤・錠等を自室でも使用しているが、本人が気付かない所で在庫や所在の管理をさせて頂いている。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	対応マニュアルがあり研修も行っている。ヒヤリハットや事故発生時は、原因究明と防止策について全職員で気付きや検証を検討・考察し、再発防止に繋げている。	○	入居者の心身状態は変化しており、ヒヤリハットや小さな気付きで個別の緊急性や危険の予測を具体的に詳細に検討し、事故防止に取り組んでいく。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署による研修で、誤嚥や病氣・事故での意識不明・心肺停止時の救急手当や応急処置について定期的に実技指導を受けている。又、病院受診の無い休日や夜間帯の緊急時の速やかな対応の為、緊急時や行動分担のマニュアルを作成している。	○	職員会議で緊急時や事故を想定して対応の確認をしている。又、施設内での研修は、出来る限りの全員参加を促している。緊急時連絡網も随時見直し現状に合った物を作成している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設内に避難経路や避難場所・職員の行動分担表や緊急時連絡網を掲示している。防災管理者による年間消防計画を行い、入居者と共に避難訓練等を実施している。又、災害時の食料や備品をホーム内に準備し、いつでも対応できるようにしている。	○	日頃から交流のある町内や地域の方々も参加して頂き、本番さながらの避難訓練を定期的に継続して実施しながら、もしもの時の意識強化に繋げていきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の心身の現状態は、面会時や電話等で家族と情報を共有し、予測されるリスクや対応策を一緒に検討して頂いている。抑圧感や苦痛の無い生活を模索し、対応困難な場合の抑制については同意書を得て対応し経過を記録するようにしている。	○	入居者一人ひとりの現状に添った緊急時や危険のリスクについて、家族と共に検討し早めの対応策を考慮しておきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定や言動の様子、訪問看護による健康観察、個別の受診等で心身の変化や異常の早期発見に努めている。認知や心身健康状態の認識を家族と共有し、緊急や特変時は速やかに医師の指示を仰いでいる。	○	普段の顔色や様態をよく知る事が大切。処方の変更時等は小さな変化や兆候を見落とさない様、気付いたことは記録に取っていく。異常の早期発見・早期治療に繋がられる様取り組んでいく。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状や処方内容は、医師の説明や処方箋で全職員が把握し、会議や申し送りでも確認している。処方薬は分包から服薬まで4回確認作業を行い誤薬や飲み忘れを防止している。服薬状況や経過は記録し、異常や特変の早期発見に努めている。	○	排便コントロールの為に、服薬状況と排便情報が分かる記録表を作成し調整に役立てる事もある。入居者が服用している処方薬についての学習も継続して重ねていきたい。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の散歩や運動で心身の機能の維持・向上に努めている。根菜や繊維質の食事、水分補給に配慮し、個別の自然排便に繋げている。又、週に1度の訪問看護で腹部や腸の動き等を確認している。	○	入居者を個別に排便傾向の把握をし、便秘の時は原因を探りながらなるべく自然排便を促せる様、食事や水分・運動量を省みながら調整していく様に取り組んでいる。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後はその方に応じた個別の口腔ケアの声掛け・介助を行い、外出からの帰所後は、うがいを励行している。義歯洗浄や保管も個別に支援をしている。口腔内異常時は併設西野病院や協力病院の歯科の往診が可能。又、口腔ケアに関する研修も実施している。	○	入居者の出来る力を見極めながら歯磨きの習慣を継続し、残っている歯や義歯の清潔に努めたい。口腔に関する研修会を定期的に受講して、手入れの必要性の理解や周知を図ってゆく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の助言を受け、多種食材をバランスよく水分共に摂取出来る様、量やカロリーに配慮し、検食を通して職員の意見も反映させている。又、健康測定で、低栄養と指摘された場合は、栄養補助食品も取り入れている。	○	栄養の偏り・水分不足にならない様、又症状に応じた食事提供が出来る様、今後も栄養士や訪問看護師の助言を得ながら対応していきたい。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染委員会が設置され、時節に応じ疥癬や白癬・食中毒・ノロウイルス・インフルエンザ等の対策の為研修や職員への周知指導が成されている。又、常時手洗い・うがい・換気・環境整備を心がけ、感染予防に注意している。	○	保健所等との連絡や伝達事項で、流行への情報は全職員が周知し早期に対策する様、徹底を図っている。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板・布巾・調理器具は毎日除菌作業を行っている。又、冷蔵庫の整理点検・排水口の清潔・環境整備は主に夜勤帯で毎日実施している。食材は新鮮な物を必要な分だけ購入し、賞味（消費）期限内に使用し無駄にならない様努めている。	○	冷蔵庫や食品庫の整理整頓・清潔保持に注意し、感染症等の温床にならない様気をつけていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	無料循環バスが施設内で発着し、病院の受診やホーム面会・各所用に親しまれている。ホームの玄関口は入居者が手作りした表札や暖簾、靴箱等があり、育てている植木や花が建物の堅さを和らげ、気軽に入れる雰囲気醸している。	○	大きな敷地の閑静な建物のイメージにならない様に気軽に立ち寄れる温かい雰囲気作りをしていきたい。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺は静かな環境で、共有の空間は程良く開放的な温かさがある。無意味にTVを付ける事は無く、食事中は穏やかな音楽を流し食卓には庭の草花を飾り季節感が溢れている。入居者との会話で不明瞭な発音や高い声を発していないか注意を払っている。	○	リビングや窓から見えるベランダや畑に季節感が感じられ、五感が刺激され情緒溢れる快適な暮らしが継続出来る様環境を整えていきたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家事の好きな入居者が台所作業をしたり、入居者同士が協力してパズルを完成させたり談笑したり、ソファで編み物等にふけていたり、居室で一人で過ごしたりと、自由に過ごせる様、道具や小物をさりげなく演出したり声掛けをしている。	○	一人ひとりのその時々がその人らしく活動出来る様見極めながら、支援していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用し馴染んだ家具を置いて頂き、お気に入りの装飾品や家族の写真等を飾って、入居者の安心した生活に繋げている。散歩で摘んだ草花を飾ったり、活動での作品を飾ったり、生活用具として使用、その方らしく快適に暮らして頂いている。	○	本人が落ち着いて暮らせる様、その方らしい部屋作りを家族の方と共に作っていきたい。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房は外気温との差に配慮し、冷房の使用は控える傾向で「ドライ」で室温調整する事が多く、湿度への配慮で空気清浄機を使用する事もある。。各居室の窓はよく開放し室内の換気を行い、空気よどみや匂いが無い様に配慮している。	○	季節毎の空調や換気扇の掃除もこまめに行い、カビの発生や体調の乱れの原因にならない様にしたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から床の段差は無く、廊下や浴室・トイレに手すりを設置し、浴室やトイレの床に滑り止めの配慮がある。浴室・トイレ・各居室にナースコールを設置、台所には車椅子対応の流しがあり、身体機能の変化に配慮した支援をしている。	○	環境整備し、家具の配置や電気コード等が元で転倒や危険に繋がらない様注意する。又、個別に出来る事を見極め、福祉道具を活かした自立支援も取り入れていきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室が分かる様、居室入り口の小窓に馴染みの物を飾ったり、自作の表札やお気に入りの作品を飾って目印にしている。居室のトイレに分かり易い表示をしたり、入居者に応じた馴染みの物品を備えたりと、使い勝手出来る様支援している。	○	壁の汚れや物品の散乱により認識の間違いや混乱を誘発しない様、清潔保持や環境整備に努めていく。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地は景観に恵まれ、毎日の散歩や畑作業や園芸活動で楽しんでいる。中庭で体操やゲームや食事会をする事も多く、入居者の笑顔を引き出している。ベランダには植木の水やり・洗濯干し場・リハビリ歩行等に活用している。	○	季節感や五感を活かし快適に過ごせる様、継続して入居者や家族や馴染みの方・地域の方と共に楽しめる場として活かしていきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

認知症であっても、社会の一員として、主体的で安心した日々の暮らしが継続できる様、地域との交流や関わりを大切にして支援していきたいと思えます。楽しみのある生活の再構築を図る為に、その方の生活歴を知り、昔していた趣味の継続や好きな事や得意な事で力を発揮して頂ける様、種々な活動を通して馴染みの仲間作りと、脳や心身機能の低下予防を図っています。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく、尊厳のある生活をして頂くためには、地域に開かれ、根差した施設であることが必須であると考えている。理念を具現化し、事業計画を立案し、常に観覧出来る様に設置している。	○	より、その人らしく暮らして行く事が出来る様、地域資源を活用しながら、地域の方とのふれあいや、活躍出来る場面作りをしていくと共に認知症の啓発活動にも力を入れていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	医療、地域と連携しながらまた、アクティビティを通して、ご本人の生きる力を高める事が出来る様な関わりをもち、それにより入居者の笑顔が見られている日々が職員の理念への意識付けにも繋がっている。	○	更に新人職員への理念浸透の為、日々の場面の中で教育し実践に反映させる力を持った職員を育成していくよう努力している。職員も達成感が得られる環境づくりも継続していきたい。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議での報告や行事などの交流の中で暮らしの様子をみて頂き地域で安心して暮らせる取り組みの実践を理解して頂く機会を設けている。ご家族地域の方に「森の家便り」や行事のパンフレットを発行し様子もお伝えしている。	○	運営推進会議をきっかけとして、地域の方々と共に認知症の啓発活動と住みよい街づくりを行っていきたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方が散歩したり入りやすい環境作り心がけている。リハビリ帰りにホームでお茶を飲まれて帰られたり趣味でされてる折り紙を入居者と一緒に楽しまれたりする事もある。現在は行事に参加していただける事も多くなっている。	○	今後も地域とのつながりを大切にし近隣の方との交流が活動の場が広がるきっかけとなるような関係作りを継続して行きたい。より多くの方にホームを知って頂き地域に開かれ根差した施設として存在していけるような取り組みがしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域行事への参加は定期的に行っている。町内の掃除や花壇作りにも参加している。運営推進会議がきっかけとなり近隣の高校生との交流へと繋がった。	○	左記の内容と同様に、今後も地域とのつながりを大切にし、日頃からのあいさつや、行事への参加協力を呼びかけていきたい。様々な交流機会を設け、施設の特徴を活かした認知症への啓発活動にも取り組んでいきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着型介護サービス事業者として北九州市が指定を行う事業の取り組みに賛同しキャラバンメイトの資格を取得。相談員派遣事業も受け入れている。市町村と共に、認知症の啓発への取り組みも共同で行っている。	○	今後も共にイベントに取り組んだり、森の家ならではの認知症啓発活動にも取り組んでいく予定である。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	客観的に検証する良い機会となっている。評価結果を通しケアを行っていく上での力づけにもなっている。サービス内容を細かくチェックする機会ともなり指摘箇所の見直しだけに留まらず気づきを日頃のサービスに生かして行ける様努めている。	○	自己評価を自己確認の機会とし、外部評価を通し、自分たちの行っているサービスの点検を重ね、自己研鑽に励んでいきたいと思う。より良いサービスとは何かをつかんでいく機会とする。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで行っている活動の報告や入居者の日頃の生活の状況を知らせたり行事を通して感じてもらう機会を提供している。運営推進会議のメンバーが架け橋となり地域と連携をとりながら認知症高齢者の住み良い街づくりを目指している。	○	今後も、運営推進会議で地域の方をお願いしたい事や、ホームが地域に貢献できることなど話し合いながら認知症高齢者の住み良い街づくりに取り組んでいきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市が指定を行う事業の取り組みに賛同し、サービスの質の確保の為、介護サービス相談員派遣事業を受け入れている。もりフォーラムを通して市町村と共に、認知症の啓発への取り組みを共同で行っている。	○	今後も共にイベントに取り組んだり、啓発に取り組んでいく予定である。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度研修は必須の研修として位置づけ、全員で制度の仕組みを周知出来る様に努めている。更に、スタッフ会議でも人権に関するビデオを鑑賞し感じた事と日頃のケアを照らし合わせて意見交換を行った。	○	今後も入居者の権利に関する知識を高めていく事が求められる。研修にも積極的に参加し、学びを深めていくよう計画している。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	先にあげた権利擁護を学ぶと共に、現在問題ともなっている高齢者虐待についても、学びを深めていく必要があり、権利擁護・リスクマネジメント・虐待についての研修を行い理解・啓発に努めている。	○	日常の何気ない場面での、自分の姿の見極めは常に怠らずに、対応していきたい。今後も開かれたホームでありたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や入居の際の説明は管理者2人1組となっており、疑問点など遠慮なく聞ける機会を作っている。また家族の存在の大切さなどを伝え、ご家族の入居に対する不安感なども傾聴しつつ、十分な理解が得られるよう、説明を行っている	○	今後も家族との信頼関係を築いていくためにも、個々の立場にたった説明や、配慮を行っていききたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス相談員が2ヶ月に1回入り入居者とサービスについて外部者と話す機会を設けている。スタッフも機会がある毎に入居者の気持ちや要望を聞き取る努力している。常に気持ちを察する姿勢を大切にしている。	○	利用者の思いや不満・苦情などについては、聞き取る努力をしていかないと、なかなか表出しにくい問題であるので、より注意を払いながら、意見が運営に反映するよう関わっていく。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の状況や環境に合わせて対応は様々です。心身共に何らかの気づきが見られた場合はご家族に一報するようにしている。個人別に写真を載せたお便りをお渡し活動報告やエピソード等もお伝えしている。	○	今後も、家族と共に入居者を支え合える関係作りや、取り組みを継続していきたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの率直な意見がお伺い出来るようホーム内にご意見箱を設置している。もちろん直接お聞きすることもある。意見や苦情おいては早急にスタッフ間で話し合い家族に回答しサービス改善を行う。	○	今後も細かい要望や苦情にも、しっかり耳を傾け、答えていく姿勢を持ち続けていく。要望や苦情は、サービス向上にあたり、貴重なものとして今後活かし、より良いサービスが提供出来るよう努力していく。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を実施し、施設の新しい取り組みや、現状など職員全員が周知出来るよう勤めている。率直に意見を出し合える環境作りがサービス向上に繋がっていくものと考えている。連絡ノートを有効活用している。	○	施設を運営していく上で、スタッフの意見の反映は重要である。あらゆる機会を通じて、情報把握に努めていく必要がある。また、画期的なアイデアが出される場合も多いのでスタッフの意見は貴重なものとする。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じた体制が取れるよう、利用者の変化がどのように生じ、どの部分に人員が必要であるかなど、職員と話し合い、勤務体制を調整している。行事の時や、家族との話し合いや状況に応じて勤務体制を柔軟に検討している。	○	状況や環境の変化に合わせて、勤務を柔軟に組み合わせていく。今後、入居者が重度化していくことにも備え、ますます、勤務に対する柔軟性が求められていくことと思われる。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃からスタッフとのコミュニケーションをしっかりと、管理者を通し、状況を把握する。スタッフの移動は極力少なくし、馴染みの関係で関わられるようにしている。	○	今後もスタッフの思いを吸い上げる努力をし、離職のないように職場環境を整えていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用募集にあたっては、性別や年齢を理由に採用対象から排除することはない。管理者とスタッフ間で話し合い、委員会活動や、アクティビティ活動等担当を決め個々の得意分野を活かし活躍していけるよう取り組んでいる。	○	今後も差別や偏見のない職員の募集や、採用に努めるとともに、職員の働きやすい環境づくりに努めていきたい。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を守る姿勢は、介護をする上での大切なルールであることを踏まえ、人権を理解する為、研修を実施し、自分たちの姿を繰り返し見直す機会を作っている。人を尊重する事とは、また本人の思いを傾聴するとは何だろうかという意識を高める場となっている。	○	今後も人権に対する意識向上に努めると共に、認知症を正しく理解してもらう為の取り組みも行っていきたい。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、サービス向上委員会を中心に年間計画を立て実施している。グループホーム協議会研修やその他の法人研修についても、積極的に参加し、その都度、他の職員にも、内容報告をしている。	○	全職員は、年2回自己考課表を作成し、自分自身を振り返る機会とし、また、目標を設定している。管理者は職員の自己目標達成に向けて、一人一人の助言育成に関わっている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会、福岡県高齢者グループホーム協議会に加入しており、他のグループホームと交流しながら、現状の課題や悩みを話し合う機会がある。	○	福岡県グループホーム協議会では、県全体と北九州ブロックの研修がとて盛んで、質の向上に繋がっている。年1回の実践報告会での発表も職員の意識向上に繋がっている。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所は、利用者と離れ、スタッフルームにて休憩している。入居者に質の良いサービスを行う為には、職員同士の連携やチームワークの良さが影響する。	○	利用者についての介護相談は、毎朝の申し送り、カンファレンス以外にも、いつでも話し合えるようにしており、一人でかかえこまないように配慮している。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断は定期的実施している。体調不良時には、併設病院にて受診、治療代は法人が負担している。また、就業規則があり、職員の労働基準は守られている。	○	各委員会（サービス向上委員会・感染委員会・アクティビティ）があり、責任を持って、各々が積極的に取り組んでいる。又自分たちの取り組みをまとめ、早期認知症学会やグループホーム協議会実践報告会等で発表し、意識の向上を図っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居自体が本人にとって、環境の変化を伴い、ストレスを感じるものなので、こまめにコミュニケーションをとりながらニーズの把握に努めている。また、家族の協力も要請し共に重点的に本人の気持ちを支えていくよう取り組んでいる。	○	入居の受け入れについては、ご家族、ご本人の納得出来る対応を今後も心がけていきたい。ご本人の不安軽減にも十分努めていく。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居してからのご本人の状態を、細かく報告するようにしている。ご家族の性格や生活背景なども把握に努め、共に本人を支えていける体制が整えられるようコミュニケーションを図っていく。	○	左記の対応を細かい配慮で行い、信頼関係を強くしていく。
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人のお話を傾聴し、ご本人にとって何が必要であるかを把握する。場合によっては病状の判断や利用の時期を待って、デイサービスを紹介する場合もある。また、緊急性のあるご家族には他サービスの紹介も行っている。	○	相談については、よく話を傾聴し、問題の原因また、内容を正しく把握する事に努め、誠実に対応していく。本人を支援していく上で、他職種の協力も仰いでいく。
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用や見学も実施し、本人の性格やニーズに合った対応を心がけている。ご家族へもご本人の納得した生活を送る事の大切さをお伝えし、共に支えていける環境づくりに努めている。	○	本人にとって、安心できる居場所つくりのためにも、入居から慣れていくまでの経過は大切な過程である。今後も本人の望む生活がサポート出来るよう、本人の気持ちや家族の思いを大切にしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	学ばせてもらっている姿勢と共に喜んだり泣いたり支えあう関係を構築していくよう心がけている。入居者の方の苦労話を聞く中で、生き方を学んだり、生活の知恵や食事の味付けを教えて頂き評価し合うこともある。	○	今後も共に喜んだり、泣いたり支え合う関係作りを継続していきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態は職員からご家族へこまめにお伝えしご家族の知っていらっしゃるご本人の情報をお聞きする等、情報を共有しながらご本人のプランと一緒に考え、面会時には一緒に手芸やクラフト、外出にも出かけ共に支えていく関係を大切にしたい。	○	今後も情報交換を行いながら、職員、家族とご本人の状態を共有し、共に支え合っていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族の関係を良く理解した上で、どのように関係作りを行っていくか検討している。ご家族との良い関係が、本人の生活を支援する上で、要となっていくと思われる為、家族と本人の話をしっかり傾聴し、関係を築きあげている。	○	家族と共に過ごしている時の本人の様子は、家族とは何にも変えがたいものだと思う事がある。良好な関係を続けて頂き共に安心してホームでの暮らしが継続できるよう支援していきたい。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始のお便りや、暑中お見舞いを差し出したり、絵手紙や、電話で、連絡をとりあったりと馴染みの関係が途切れる事のないような生活を心がけている。	○	ご本人にとって、ホームは我が家という認識を職員が持っていることで、自然に馴染みの生活が継続されていくような支援をしていきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	職員は、個人の性格や入居者間の人間関係を知り個人が持っている調整力や、助け合う力を十分発揮して頂けるような環境を整え、気づきを申し送りノートに記入し全職員が情報を共有し意見交換出来るようにしている。	○	今後も入居者の個性を活かした、入居者同士の人間関係力や、場の力を活かした取り組みを継続したいと思います。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した後も、面会やお電話で、ご家族と新しい生活の場の話であったり、悩みを聞く機会となっている。	○	必要な事があれば誠意を持って援助していく。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドシートの記入をご家族の協力のもとで行いご本人、ご家族と相談しながら、ご本人に合った生活を検討している。情報を共有しながらご本人のプランと一緒に考え、共に支えている。	○	ご本人の声や、言葉にならない思いを、職員の主観的な判断で捕らえる事がないように、寄り添い、本人の思いに近づいていけるよう努めていきたい。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートで過去の生活の様子や好む事など把握し、その方が馴染みの大切にしていく事を守りながら、生活できるよう支援している。	○	入居後数年経過しても会話の中から新しい情報が得られることや、来客者から得ることもあり、寄り添いながらも新鮮な意識を無くさず接していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	持っている力を十分発揮して頂けるよう職員は観察力や柔軟性を養い、気づきを申し送りノートに記入し、全職員が情報を共有し意見交換出来るようにしている。断片的な情報に捉われず総合的に本人の状態を把握するよう努力している。	○	今後も、固定観念にとらわれないよう広い視点で一人ひとりを観察し、総合的にその方を把握出来るよう努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の言動は基より表情や、非言語的な所からもご本人らしさを感じとり、日頃の状態は職員からご家族や主治医、訪問看護師など必要な関係者へこまめにお伝えし、情報交換しながら本人のプランと一緒に考え、共に支えている。	○	ご本人の言葉や、言葉にならない思いを、職員の主観的な判断で捕らえる事がないように、寄り添い、本人の思いに近づいていけるよう努めていきたい。又、ご本人に携わる方々と共を支えていける様努めていく。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は最低でも3ヶ月毎に見直し状況の変化に応じて随時ご家族ご本人と共に話し合いながら計画を立てている。様式を改善した結果生活全般に関して以前より具体的で、ご本人らしく暮らして頂けるような計画が立てられるようになった。	○	今後も、状況の変化に伴い、介護計画をご家族、ご本人と共に見直し、よりご本人の望む暮らしが継続出来るように努めていきたい。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態は医療、生活、活動とケアプランに沿って記録できるように工夫し、記録がプランの見直しに生かされるようにしている。情報を共有する事で、断片的な情報に捉われず、総合的に本人の状態を把握する事が出来ている。	○	介護計画に添った記録、計画を見直す上で十分活用出来る記録とする事を意識した個別記録を記載し、全職員が考える力をつけていくよう取り組んでいく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携により訪問看護師による健康チェックを行い意見を持ち合っている。認知症高齢者の特色と家族の背景や状況を踏まえ、適切な看護処置が提供出来るよう対応している。医療面での些細な不安も気楽に相談できる関係を築いている。	○	重度化や、終末期のあり方が、ご本人、ご家族にとって後悔の無い、穏やかなものとなる様、事前、あるいはその時々で、ご家族、医療従事者を含めた話し合いが出来る様、連携体制をしっかり確立させていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じ意見交換の機会を設けている。防災訓練や救急救命の研修時には消防署員による指導を受けている。施設内のイベントに参加されたり高校生の訪問や幼稚園の昼食会に参加したりと交流する機会がある。	○	今後も地域資源の掘り起こしに努め、あらゆる機関を利用しながら、又、地域資源に入居者の持つ力を貢献していける様努めていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の必要に応じて、理美容サービスや、福祉用具専門員によるADLに応じた生活支援用具の相談を受けている。	○	本人が求める他のサービスの把握に努め、活用の広がりを進めていく。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席して頂き、取り組みを紹介したり、意見交換する機会がある。地域で認知症の方を支援していくために、私達にできること、地域の方にお願したいことなど地域と連携した取り組みについて話し合った。	○	地域の認知症高齢者を支えるネットワーク作りの中で、グループホームだからこそ出来ること、を地域の方々と協力しながら行っていきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の意向によって主治医を検討している協力病院が隣接してある為急変時にはいつでも対応できる体制がある。医師に相談した内容と診察結果等は細かく記録し訪問看護師に繋げ関わる全員が情報を共有出来る様にしている。	○	かかりつけ医と連携しながら、必要に応じ他科受診を行う事もある。今後も症状に応じた医療提供が迅速に行えるよう支援していく。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の中に物忘れ外来があり、知見の深い専門医による適切な薬の処方や、生活面での関わりなど助言をもらえるようになっている。	○	日頃の生活の中から症状の変化等細かく記録し、専門医に情報の提供が出来る様に努めていく。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間医療連携体制により訪問看護師と契約している。週1回の訪問がある。夜間の相談や、訪問にも応じてもらっている。いつでも医療や、栄養などの相談ができる体制があり、必要時には、処置や、点滴など医師との連携により行う。	○	かかりつけ医と連携しながら、必要に応じ、他科受診を行うこともある。今後も症状に応じた医療提供が迅速に行えるよう支援していく。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	疾患等で入院を余儀なくされた場合、環境の変化に伴う問題を最小限に留める為、医師やご家族と密に話し合い早期に住み慣れたホームで生活が再開できるような取り組みをしている。	○	ホームでの生活がいかに本人の生きる力を高めるかを認識し、今後も経験を活かして行きたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際、意向確認書をもっている。本人、家族の意向の変化、取り巻く環境の変化など状況に応じた時々家族・かかりつけ医・看護師・職員が対応できる支援を踏まえて話し合い、その人らしく生きる力を引き出せるよう関わっていく。	○	家族にとっては入居者本人の心身の状態はもちろん、ご自身の家族の事情や心身の状態によっても意向が揺れ動く事もあると思われる。その都度方針の確認を行いながら関係者、皆で最善の方向性を見出す努力をしていく。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	管理者会議や全体会議の中でも、施設で対応できる事、出来ない事を話し合う機会を持ちながら、今後の変化に備え検討を重ねている。個々の状況に合わせて、柔軟に対応出来る様に検討していく。	○	医療行為の限界や職員の介護力、家族の協力体制、他入居者とのバランスなどあらゆる事が想定される中で、日々の健康を維持していく事の大切さを感じ、介護、医療の両面から知識を積み上げていくよう努めている。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅からホームへの入居の際は、心理的な援助をしっかりと行い、ゆっくりと生活に慣れて頂けるように配慮します。別の場所への転居の際も、情報提供を密に行い住み替えによるダメージを最小限に出来るよう努める。	○	住み替えに伴うリスクを見極め、必要な援助を提供していく。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の際の羞恥心への配慮や本人の好まない話題の把握など、その方が大切にしていること、拘っている事嫌な事を知った上で尊重し本人の思いに添った対応を心がけている。いつまでも誇りやこだわりを持った生活をして頂ける環境を整える。	○	接遇研修は行っているが、更に職員の意識向上を図れるように努めたい。個人情報については、マニュアルを作成している。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	具体的に、内容を示し、自己決定できる様な声かけに努めている。理解できる部分に差異があるので一人一人の個性に応じた対応を心がけている。	○	ご本人の思いを読み取り、自己決定出来る機会を出来るだけ多く取り入れ、ご本人の望む暮らしを支援していく。自己決定し暮らしていく事の大切さを認識し、ケアに活かしていく。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や、気持ちに合わせて対応していく。本人の声に耳を傾け、又、言葉にならない表情や仕草からも本人本位の生活がなされているか常に、気持ちに寄り添った支援に努める。	○	今後も入居者の思いを聞き取る姿勢を持ち支援していくことに努めます。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の好みに応じた身だしなみを基本に、 髪型や、化粧、髭剃りなど関心を持ち続けて いけるように支援している。ご家族によって 散髪をされている方もおられれば、訪問美容 室を利用される方など様々です。	○	今後も、個性を大切にしたい支援をおこなって いく。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活か しながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作った食事を同じ食卓で囲み食事を取 る。外食に出かけたりお弁当を作り前庭で景 色を眺めながら食事をとることもある。育て た作物で料理を作る等食事を取ることだけ ではなく自分達で材料から作り、振舞う喜び も感じて頂いている。	○	今後も、食事を取ることだけではなく、幅広 く、食を通じて五感に刺激をもたらすこと が出来る様な取り組みをしていく。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一 人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	訪問販売や、買い物に出かけた際、ご自由 に買い物して頂いている。午後のおやつにさ れる方や、居室で好きな時間に食べられる 方もおられます。誕生日やご本人にとつ て特別な日はその方の好物を用意してお 祝いします。	○	嗜好の楽しみを満足させる事は気持ち が豊かになるものである。適量を考 えつつ毎日取り入れていく。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在は排泄パターンや排泄サインが把握出来 ているため記録表は作成しては ないが、排便の有無は日誌に記録し最終 排便の把握は出来ている。なるべく自然 な排泄をして頂くためにその方のパ ターンにあった誘導を行っている。	○	継続的な支援を行い安心と清潔を守 っていく。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	ご本人の希望に添った入浴が出来 る様に、湯のはり方や、支援の仕 方も配慮しています。今後、心身 共に重度化してくる事が予測され るが、なるべくその人らしく入浴 を楽しんで頂けるように努めてい る。	○	今後も、安全、快適な入浴がなされ るよう個々の好みや状態把握に 努めていく。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	居室で休まれる方やリビングで 仮眠を取ったりと本人の希望によ って休息の仕方は異なります。活 動内容も検討しながら場合によ ってはご家族医師とも話し合い 睡眠時間等も含め総合的に生活 リズムを整えます。	○	今後も一人ひとりの状態に合わせ た生活がなされるよう支援して いく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や習慣の継続が出来る様に様々なアクティビティや役割を取り入れている。畑で作った野菜を調理好きな方が調理したり散歩中に摘んだ花で生け花をしたり書道をしたりと生活の中で個性が生きるような支援を心がけている。	○	自己表現が難しくなってきた方でも、ご本人の言葉や活動中の表情、又、生活歴からも日々の生活に喜びや、楽しみのある生活を送っていただける支援へのヒントがあることを大切にし、ご本人の思いに添った生活を支援していきたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る入居者は限られているが、買い物の際の支払いや、リハビリ、通院時の支払い、帳簿に記帳する際の計算など金銭を使う機会を提供し、その方に応じ支援している。	○	日常生活の中で行われていた動作や行為は出来る限り行える環境を作っていきたい。職員がうまくサポートすることで出来なくなったと思われる行為も出来ることの一つとして加えられることがあると考えます。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	循環バスを利用して買い物へ出かけたり、行楽地や美術館などに、皆で出かけることもあれば、個別で食事に出かけたりと様々な形態で外出している。	○	今後も個々の希望を取り入れ、外出の企画を立て喜びに繋げていきたい。また行きたい、楽しかった、我が家が一番など様々な感情を揺さぶることができるようところに響く外出を試みたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族だけでは負担が大きく諦めていた外出も職員と一緒にであれば楽しめるとの声を拾い、外出企画を立て、ご家族も一緒に出かける機会を取り入れている。現在では、次々にご家族から発案があり、共に楽しめる関係となっている。	○	ご家族とも話し合いながら、普段は行けない様な場所や、思い出の場所へ行ける機会を作っていきたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、兄弟、知人と電話や手紙を通して、交流する機会がある。面会の少ないご家族には適宜電話を掛け、連絡を取り合っている。大切な方との交流の機会を失うことがないよう意図的に働きかけをしていくこともある。	○	今後も馴染みの人間関係が継続されるようさりげない気配りを大切にしていきたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	来客者が入りやすい雰囲気作りを心がけている。足の遠のきがちなご家族へは、敷居が高くならないように、こまめに連絡を取り合うようにしている。挨拶や、お帰りになられる際の言葉掛けは心地の良いものが残るように気を配っている。	○	ご本人にとって、ホームは我が家という認識を職員が持っていることで、自然に馴染みの生活が継続されていくような支援をしていきたい。大切な人間関係を継続していける環境作りに気を配りたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止マニュアルに添った拘束の無いケアを実施している。リスクマネジメント研修や人権研修を行い、理解実践に活かしている。	○	身体拘束に対する認識を深め、正しい知識のもとに、支援していく。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に呼び鈴は付いているが、日中鍵は掛けていない。職員は所在確認に気を配り、ご本人の自由な空間で過ごして頂けるようにしている。	○	鍵を掛ける事が、入居者にとって、どのような弊害をもたらすかを理解し、鍵を掛けない支援に取り組んでいる。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々に合った距離感を考えながら、見守りの位置を工夫している。夜間の巡視は安全確認には欠かせないものだが居室はリラックスできる空間でもある為プライバシーの侵害にならないように又、巡視がストレスにならないように配慮している。	○	個々の身体や精神状態の違いを考慮した安全管理によって安心した暮らしを支えていきたい。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活を営む上で、洗剤、包丁、針など危険を伴う物を使用する機会は多いが、こまめに片付けながら出しっぱなしにならないようにしている。又、注意の必要な物品に関しては鍵の掛かる場所で保管するようにしている。	○	危険の予知、入居者の状況を把握し、予測出来るリスクを回避出来るよう対応策を検討しながら関わっていく。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成し対応策を共有している。個々の状況に応じて知っておく必要がある事項については、医療研修などを通じて学びを深めている。事故を予測し回避できる姿勢が取れるよう研修や実践で日々学ぶ姿勢を大切にしている。	○	職員間で気付きを放置せず、その都度話し合いの場を設け、事故防止に努めていく。介護経験の長い職員や看護師からの意見を他の職員が謙虚に受け止め知識を深める努力をし、事故防止に繋げていく。定期的実践に活かせる研修を行っていく。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命研修を実施し急変や事故に備えている。緊急時の連絡体制はスタッフルームに掲示し、速やかに対応出来るように備えている。又、災害時に備え水、米などを備蓄している。	○	緊急時、冷静にベストを尽くせるよう、イメージしてみて知識が不足している所は、専門職に学び克服しておくなど職員一人ひとりが意識を持ち取り組んでいく姿勢を引き出していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を実施している。更にスタッフ会議でも訓練で学んだことを再認識し、スタッフルームに災害時の手順書を掲示しつつでも確認出来るようにしている。	○	訓練したことが実際の災害時に活かせるかが重要である。定期的訓練だけでなく、日頃から入居者の現状に則した対策を考え合わせ、疑問点など出た場合関連機関に相談し指導を受け、備えておくことが必要と考える。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	心身の状況は様々であるがどの方にもご本人らしく暮らして頂く一方、それに伴うリスクがある。リスクや心身状況の変化に伴う今後の可能性等も含め検討している。生活においての危険を全て排除するのではなく状況に応じた対応をかえている。	○	今後も、起こりうる事故やトラブルの可能性があれば、即時にご家族に連絡し、共に、対応策を検討していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル、表情や顔色、声色なども常に意識し観察している。職員のちょっとした気づきも申し送で伝達し職員皆で意識し関わりを持っている。看介護記録に記録しご家族や医師への情報提供につなげている。	○	心身機能の維持、安定は、生活の基本となるものなので、今後も早期発見、早期対応に努めていく。体調の変化など全職員が気づきをもって、研修に参加し、疾患への理解、対応などの知識も深めていきたい。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者の処方箋現病歴と照らし合わせながら疾患に伴いどのような薬を飲まれているかを説明する機会を設けている。誤薬への防止策として三重のチェックを取り入れている。	○	心身の変化に伴い薬や対応も変化していく。現状に止まらず、その都度変化を記録し、ご家族、医師へ情報提供していく。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食事、水分、適度な運動腹部マッサージなどなるべく自然な排便が見られるような働きかけを看護師などと相談しながら試みるが身体状況によっては下剤を服用し排泄を促す必要のある方もおられる。	○	日々の暮らしを充実し、ご本人らしく過ごして頂く為には健康な状態を維持していく事が基本となり、食と同様排泄も健康状態に大きな影響をもたらすものであると考える。排便の状況を把握し、食事、水分などにも十分気を配り、必要に応じ服薬も検討し大きな疾患につながらないように努める。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔を保つことで食生活の向上や感染予防に努め健康状態を維持させ日々の暮らしが充実したものになるよう支援している。個々に応じたケアの手順は様々です。	○	健康な状態を維持する為にも口腔内を良い状態に保つ事の重要性は大きい。歯の痛みや、腫れで食欲が低下する事も多いので、口腔ケアに対する意識を高めていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分共に1日を通じた摂取量が把握出来るよう記録をつけている。水分摂取の大切さを説明し嗜好も取り入れ必要量摂取して頂けるように工夫している。定期的に栄養課にてアセスメントを実施し助言を頂き日々の献立に活かしている。	○	今後もバランスの良い食事の提供を心がけ、美味しく、楽しく食事をして頂ける様に努めます。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染委員会が設置されており会議の中で感染症などに関する勉強会を実施している。感染マニュアルも設置し感染症に関する理解を促している。万一に備え、嘔吐物など速やかに処理出来るよう必要な物品を備え二次感染防止に努めている。	○	継続し、感染に関する情報をキャッチし、対応を重ねていく努力が必要である。特に、早期発見、早期治療に努めていく。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が食材の賞味期限をチェックし、食品の保存管理を行っている。まな板や、包丁などは毎日ハイター消毒し、食器類は加熱乾燥している。食品を取り扱う際は、必ず手洗い、消毒するようにしている。	○	今後も、職員一人ひとりが食中毒に関して意識を持ち、衛生管理に努めていく。基本である手洗い、消毒の徹底を継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気兼ねなく出入りして頂けるように、玄関周囲に花を植え、季節に応じ、植え替えをしている。花壇づくりは地域の方との交流の場所ともなっている。	○	今後も季節に応じ、花を植えたり、玄関周囲のレイアウトを工夫していく。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関には作品を展示したり、散歩で摘んだ草花や栽培した花が観賞できるようさりげない気配りを大切にしている。リビングやダイニングの家具は入居者の状況に合わせ希望を取り入れながら配置している。	○	共同スペースは入居者にとって心地の良い空間であるよう、音や光を調整すると共に、私たち職員も環境因子のひとつであることを自覚し関わっていきたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングとキッチン間に仕切りがあり、ご本人の気分によって皆と一緒に場所にくつろいだり、お独りで読書をされたりとご自由に過ごして頂いている。	○	空間の大切さを認識し、独りになれる居場所作りや、ほっと出来る空間作りに努めていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からアルバムや使い慣れた家具湯飲みなどご自由に持ってきていただき、落ち着いた空間になるよう心掛けている。入居者によっては自己作成した文集や書道作品などを置いている方もおられる。居室の雰囲気は個々の好みにより様々です。	○	居室の空間に新しくご自分で作られた作品を飾ったりお孫さんからのプレゼントを大切に飾られたりと、住み慣れて行く中で、居室の雰囲気も少しずつ変わっていく方もおられる。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜換気を行い、匂いがこもらないように気を配っている。又、自然な風を取り入れ心地よい感覚を味わって頂いている。	○	換気、室温調節についてはその都度こまめに行い個々の心身の状態にも気を配っていききたい。体感で感じるものは、職員本意でなく入居者の視点に立った関わりをしていききたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能に合わせて、手すりをつけたり、ベッドの頭の位置を調整したり道具を使用しやすい場所に設置するように工夫している。意外なものが障害になることがあるので、職員は気づきを出し合い検討している。	○	今後も心身の状況に応じ、検討し、安全の確保に努めていきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	少しの変化でも思いがけない混乱や不安のきっかけになることがある為その方を知ることが大切である。自立を妨げないようその方の状態に合わせた環境と活動の支援を行っている。	○	職員は固定観念にとらわれず、他職員とも活発に意見交換をし、多角的な視点から、出来る力を導き出し、工夫しご本人の力が発揮できる生活を構築していく。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	緑に囲まれ散歩や散策が日課となっている。ご自分の畑を持っている方もおられ、草とり、収穫と園芸活動を行っている。ベランダにはアサガオによる日よけやプランターで野菜を育てたり、花を植えたり植物の成長を楽しんでいただいている。	○	広い庭のある環境の中で、四季折々の変化を五感に働きかけていきたい。植物を育てていく過程で、成長や収穫の喜びを味わい、押し花やフラワーアレンジメントなど自然を活用して生きる喜びに繋げていきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 （この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

認知症の症状や希望される生活は個々によって異なるもので、職員は正しくその方を知り、必要なサポートが出来るような視点を大切にしています。ご家族、職員が同じ目線でケアに携わり、その方らしい生活の再構築を図っています。また、その様な関係づくりを大切にしています。アクティビティを通じて残存能力の維持、向上を図ると共に信頼関係を築き安心した環境の中で自分らしさが存分に発揮して頂けるような支援を目指します。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人の地域での暮らしを支えていたあらゆる資源の継続性を探りながら、その人らしい暮らしが継続出来るよう地域との関わりを大切に、「地域に根ざしたホーム」である事を理念としている。	○	その人らしく暮らす為の支援を、家族や地域の方の協力、協働の中で継続していく努力を重ね、理念に基づき具体的な日常を構築していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を周知し、理念に基づく支援が実践されるよう意識した取り組みをしている。職員全員で定例会議を行い、日常を振り返り初心を持ち続けるよう意識を高めている。各委員会でも理念に基づく活動に取り組んでいる。	○	更に新人職員への理念浸透の為、日々の場面の中で教育し、実践に反映させる力を持った職員を育成していくよう努力している。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議での現況報告、また地域の人や家族との行事参加などの交流の中で、入居者の暮らしにふれる機会を作り、理解へ繋げている。「森の家便り」を定期発行し、町内会、老人会、市民センターなどに配布し発信している。	○	家族はもとより地域の方へ理念に添った暮らしを知って頂き、理解と協力を推進していく努力を続けていく。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議出席のお願い、行事参加の呼びかけ回覧、新聞の配布、菊作りの指導のお願い、近隣小学児童との交流、近隣市場での買い物や配達、床屋、循環バスを地域に開放し利用して頂くなど地域との親しい関係作りを推進している。	○	今まで培った関係を大切に継続して、今後も積極的に呼びかけていきたい。また、交流しやすい雰囲気作りに努め開かれたホームにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が町内会員となり、清掃作業や花壇作りに参加したり、地域の方が盆踊りや餅つき等季節行事や節目の行事を、入居者と一緒に楽しまれている。近隣の散歩中挨拶を交わし季節の花を摘んで下さる方もあり馴染みになっている。	○	活動の継続と、日頃からの挨拶など小さな事柄の積み重ねを大切に交流を深めていきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が、入居者を支援する中で得た知識を活かし、認知症の理解や予防について地域に発信出来る場作りを運営推進会議などを通じてお願いしている。実習生を受け入れ、高齢者の心理や支援のあり方などを伝え学んでもらっている。	○	キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座の講師、活動している。色々なつながりや小さな交流を続け地域で活かしていける事を喜びとしたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では、日頃のサービスを振り返り改善点を見出す機会になっている。更に外部評価によって気付かない点が明確になり、反省と共に自信に繋がる事もあり、より良いサービスの質を追求する意識が向上している。課題については、職員全員で改善点を話し合い取り組んでいる。	○	継続的に評価を行い改善点を明確にし、基本的なサービスの充実と、独自性も取り入れながら質の良いサービスに、より近づく努力をしていく。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者、民生委員、消防署員、保健師、家族等参加により2ヶ月に一回開催している。理念に添った活動の取り組みの実際や評価報告、又その都度議題に沿った話し合いが持たれている。地域に根差したホームの観点から、地域に向けた認知症の啓発活動にも繋げている。	○	会議では率直な意見交換が出来るような雰囲気を作り、その中でたくさんの意見や提案を受け止め地域に根ざした質の良いサービスを提供していきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	東京研修センター及び市共催の認知症への正しい理解の啓発促進を目的に開催したイベント「もりフォーラム」への参加協力し、多数の家族参加にも繋がった。また、介護サービス相談員派遣事業を受入れ外部者による客観的な意見を頂く場を設けている。	○	今年度の「もりフォーラム」は10月31日に山田緑地で開催され、家族会議、本人会議への参加予定。自然の営みを体全体で感じ、入居者と家族、職員が秋の一日を共に過ごすことにしている。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政開催の人権研修の出席者による伝達研修を1月に行い多数の職員が出席した。欠席の職員へは資料配布と共に説明し、レポート提出にて理解を深めた。現在成年後見制度の利用を開始した家族の支援を行っている。家族会でも説明の機会を設けている。	○	制度変更などに注意を払い知識習得に努め、必要時に説明し話し合いが出来るような体制をしっかりと作り活用していく。定期的な研修会を実施していく。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待は当然あってはならないことである。重大な事はもちろん、見過ごされがちな言葉や態度による虐待等の予防と気付きをテーマに研修を行い理解・啓発に努めている。万が一発見した時の市町村や県などへの対応システム（通報など）についてもマニュアルにより周知を促している。	○	研修での学びを意識向上に繋げ、日常の何気ない場面にも常に自己を振り返り、他職員の意見にも耳を傾け間違いのない行動をとっていけるよう周知徹底していく。また、定期的な研修も継続していく。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書にてその内容を明白にし、入居時に説明を十分行い、不安や疑問があれば質問に応じ、納得した上で同意書を頂いている。料金改定時にも改定内容を文書にて説明し同意書を頂いている（24時間医療連携加算）。	○	契約解除に関しては、十分な話し合いと期間を経て納得して頂く事が必要と考えている。開設から現時点まで対象者はいない。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の介護サービス相談員が2ヶ月に1回来居され、入居者と話したり寛いだりしながら、現在のサービスについて不満や要望が無いかわかる機会を設けている。言葉で思いを上手く発信することができない入居者に対しては表情、行動などから思いを引き出すよう努めている。	○	入居者の思いや不満・苦情などについては、伝達手段が困難な方が多いため、日頃の様子をよく観察し思いを受け止め、出来る限り本人の意向に沿ったサービスの提供に心がけている。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会で日頃の様子を報告している。訪問看護師による健康管理の報告、受診は必要に応じ家族と共に職員も同行し、医師へ情報提供し指示を受けている。日頃の生活の写真をリビングなどに掲示し紹介。遠方の家族へは電話や写真・予定表・本人の手紙を添えた便りを出している。	○	面会の頻度が比較的多い為、顔を会わせ話をする機会が多い。家族、職員間の情報交換で意思疎通が上手く取れているように思う。今後も同様な関係作りをしていきたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、重要事項説明書の掲示や意見箱を設置し、家族会や日頃の面会時の折々に口頭で伝え、遠慮の無い話し合いが出来るようコミュニケーションをとっている。意見や苦情があれば、速やかに職員の周知とし、必要に応じ改善策を検討している。介護相談員の訪問も知らせている。	○	今後も意見や要望、苦情に対し、姿勢を正し傾聴し、早急な対応と結果報告を確実に実行し運営に反映させていきたい。家族会の活動も活発になっている為、意見が出しやすい環境になっていると思われる。あらゆる機会を利用して、意見を伺うよう努めていく。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の受け入れや入居継続の可否については、全体会議（検討会議）で職員の意見を聞き検討され決定している。月1回の職員会議や申し送り時、各委員会会議等で話し合いや報告の場を設け現場での活発な意見交換が行われている。提案事項は、内容によりその応じた現場で生かされている。	○	職員一人一人の日常の中から生まれた意見や情報、新鮮な視点に立ったアイデアなどがサービスの質を高める事に繋がる例が多々ある。意見を出し合える環境を作り、出た意見を大切に運営に反映させていく。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基本的には日勤者3～4名（内正職員1名）が勤務し、夜間は1名だが早出、遅出などの変則勤務で支援に答えやすい仕組みとなっている。入居者の状態変化に応じ職員間で話し合い勤務時間調整を行う事もある。行事や企画、急病や急用での職員不足は3ユニットが協力体制で対応している。	○	入居者の心理面での影響に配慮しつつ、3ユニットで臨機応変な協力体制を取れるよう日頃より職員間の連携を大切にしている。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃からスタッフとのコミュニケーションをしっかりと、管理者を通し状況を把握する。やむおえず離職になった場合も、引継ぎ期間を十分とり細かく申し送りをし、ダメージが最小限になるよう配慮している。スタッフの移動は極力少なくし、馴染みの関係で関われるようにしている。	○	今後もスタッフの思いを吸い上げる努力をし、離職のないように職場環境を整えていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用募集にあたっては、性別や年齢を理由に採用対象から排除することはない。又、差別なく安心して働ける職場環境を整えている。職員については、着付け・陶芸・料理等、各々の得意な事を仕事に活かしてもらっている。資格取得の支援、個人の能力向上の為に研修参加も職員の希望に添って行っている。	○	採用時、着目するポイントは、表情（笑顔）言葉使い、認知症の方が、感じていることや思いを感じ取れる感性、認知症の方の残存機能を引き出す感性があるかないかに着目している。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者及び職員共に基本的人権が尊重されるべきである。人権擁護に関する資料を職員に配布し自己学習後に研修を実施し、あらゆる人権問題に目を向け理解していくよう取り組んでいる。意識を高め、日常の中で入居者に対し人権を尊ぶ関わりをするよう啓発している。	○	人権の尊重はひと時も軽率に取り扱われる事ではない。自身を大切にする気持ちを他人に対しても持つ事が出来るよう、人権に対する意識向上を図っていく。人権研修は定期的な研修とし継続していく。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、サービス向上委員会を中心に年間計画を立て実施している。グループホーム協議会研修やその他の法人研修についても、積極的に参加し、その都度、他の職員にも、内容報告をしている。参加は、常勤・非常勤の差別はない。	○	年2回、介護技術個人チェック表を付け、管理者及びリーダーは、個別現場実習計画を立て、全ての項目、出来る事を目指している。又、年2回自己評価表記入にて、自己を振り返る機会とし、管理者と共に、一人一人助言育成に関わっている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会・福岡県高齢者グループホーム協議会に加入しており、他のグループホームとの交流しながら、現状の課題や悩みを話し合う機会がある。	○	福岡県グループホーム協議会では、県全体と北九州ブロックの研修がとても盛んで、質の向上に繋がっている。年1回の実践報告会での発表も職員の意識向上に繋がっている。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	週休2日制で、だいたい月に9日～10日の公休があり、ゆっくり身体を休め、リフレッシュする時間をとるようにしている。休憩場所は、利用者と離れ、スタッフルームにて休憩している。	○	利用者についての介護相談は、毎朝の申し送り、カンファレンス以外にも、いつでも話し合えるようにしており、一人で抱え込まないように配慮している。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断は定期的実施している。体調不良時には、併設病院にて受診、治療代は法人が負担している。また、就業規則があり、職員の労働基準は守られている。	○	各委員会（サービス向上委員会・感染委員会・アクティビティ・園芸）があり、責任を持って、各々が積極的に取り組んでいる。又自分たちの取り組みをまとめ、早期認知症学会やグループホーム協議会実践報告会等、毎年発表し、意識の向上を図っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知や理解判断力などを見極め、症状や性格に応じた対応で本人の思いを引き出し、入居に至る過程を焦らず家族と話し合いながら進めている。病院や施設からの入居の場合は、相談員を通じ専門職からの情報提供を受け心身の状態把握に努めている。	○	その都度、本人、家族は基より、よく知る人からの情報収集を出来る限り行き、不安が少しでも軽減し、安心に変わるよう働きかけていく。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	この時期に十分な情報交換やコミュニケーションを行い、本人を支えてきた家族の思いや入居後の暮らし方についての考え、不安要因などを受け止め、入居後は、それらの思いを考慮した支援を行い家族の安心につなげるよう努めている。	○	左記の対応を細かい配慮で行い、信頼関係を強くしていく。
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症介護の家族は大変な思いを経験している事が多い為、しっかり傾聴しながら本人との思いの違いについても把握し、方向性を見出し出している。話をする中で施設の違いについての説明を行ったり、他の社会資源の情報を提供することもある。	○	相談を受けた時、本人と家族にとって何がよい姿かを見極め、広い視野で情報提供が出来るよう知識を持って対応する。
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による家庭や施設訪問、本人家族の見学や体験入居などを通し、安心して利用に繋がるよう工夫している。入居後は環境の変化に少しずつ馴染むよう、同じ趣味の入居者との活動や役割の提供、席順などにも配慮し馴染みの関係作りを工夫している。	○	その方の性格や認知症の程度など個性を踏まえた上、家族の協力も得ながら経過を追っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物作り、家庭料理など得意な事が発揮出来る環境や機会を作る中で、手順やコツを教わる事も多い。生け花や茶道の師範をされていた方もあり学びは多い。一緒に過ごす時間の中で、自然に笑いあったり、励ましあったりと関係が深まっている。	○	共に支えあう関係の中で、互いの貴重な時間を大切にしていきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の中から、職員をサポートしたいとの声を頂き、多彩な場面で担い手となっている。職員と家族が目的を一つに意見や要望を遠慮なく発信し合う環境となっている。入居者の支援と言う共通の関係が一つになってきたように感じられ心強い。	○	家族が色々な場面で職員と一緒に、本人を心身両面から支援する機会が増え、感謝している。今後も両輪となって本人を支えていく関係を継続していきたい。家族会の企画「3丁目カフェ」など楽しい時間を共有していきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	互いの暮らしの様子や心身の状態を知り、家族との絆を繋いでいけるよう、受診の付き添いや行事の誘いなど、来居の機会を作っている。来居時、家族が食事作りに参加しお母さんや姑さんと一緒に台所に立つ姿は微笑ましい。家族会の活動にも協力支援している。	○	家族と共に過ごしている時の本人の様子は、家族とは何にも変えがたいものだと思う事がある。家族が本人を支えることの意味を伝え、良好な関係を続けて頂き共に安心してホームでの暮らしが継続できるよう支援していきたい。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中学時代の同窓会への出席、師範をしていた公民館講座への出席、生徒さんとの交流、自宅の庭の手入れ、在宅の頃の近所の方との挨拶や会話など馴染みの関係の継続を支援している。在宅の頃の近所の馴染みの肉屋さんがホームに週2度配達に来てくれていて会話を互いに楽しみにしている。	○	馴染みの方との継続した付き合いは、本人にとって、とても安心でき楽しみでもある社会とのつながりである。今後も継続していきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	食事準備・片付け・洗濯・掃除等出来ることを協力し、支えあって暮らす場面をたくさん作り会話の橋渡しをし、馴染みが深まるよう支援している。認知レベルの差や行動障害などにより関係の悪化が見られることもあるが、気の合う人との外出などで優しい気遣いのある一面を見せたりされる。	○	馴染みになって、自分本位になり我がままになる方もいるが、ふと優しい一面が見られる事もある。嫌な思いをした記憶が残り、関係が修復出来ない方もいる。いろいろあって当然だが、その人の良い所を見せる場を作り認め合っていく関係作りを模索していく。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	過去に、入院による退去と入院中亡くなって退去となった方がいる。いずれも入院中面会に度々行き本人・家族への励ましや相談援助を行った。今後もその方に応じた住み替え支援など家族の相談者となるよう努めていく。又退去された方の家族が畑の手入れを手伝って下さり交流が続いている。	○	必要な事があれば誠意を持って援助していく。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドシート 個別特性シートを家族からの情報を基に作成し、本人の生き方や思いを暮らしに反映出来るようにしている。また環境に慣れ仲間との生活をしていく中で芽生えてくる思いもある。色々な場面での言葉や行動などからその方を知るよう努めている。	○	各職員が色々な関わりの中から得た言葉や行動、表情が本人のどのような思いなのかを考え日常に活かせる様努め、又、それが職員全員の共通の理解となりケアに活かされるよう積み重ねていく。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートや個別特性シートで過去の生活の様子や好むこと等把握し、その方が馴染みのある大切にしていることを守りながら、生活できるよう支援している。在宅からの公民館趣味講座の継続や自宅の庭の手入れ、仏壇の世話など。	○	入居後数年経過しても会話の中から新しい情報が得られ思いがけなかったり、珍しい来客から得ることもあり、寄り添いながらも新鮮な意識を無くさず接していく事が大切である。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の身体や精神状態・行動障害を考慮し、本人の意向を大切にしつつ、その日の勤務者が、近日の様子も加味しながら話し合い、一日の生活の流れを作っている。疾患や、服薬内容によっては、日内の動きの違いもある為考慮している。	○	今後は更に高齢化が進み疾患管理や疲労への配慮の必要性も高くなると考える。そのような中でその方に応じた生活をどのように組み立てていくかを常に検討していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向を受け止め、その人らしい介護計画を作成している。月1回の職員会議時、入居者全員の介護計画の内容を担当職員が中心となり、見直しの必要性などについてカンファレンスを行い、共通認識した上で支援に活かしている。	○	本人の思いと、家族を含む支援者との話し合いをこまめに行い、時々に必要な支援を継続しその人らしい暮らしを支えていくように努める。今後は医療面の対応も更に必要と考えられる為、医師・看護師・OTなどの専門職の意見も反映させていく。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的（月1回）あるいは状態変化には随時のモニタリングを実施し、3ヶ月毎に介護計画の追加や継続、終了を見直し、介護計画に反映させ現状に即した計画になっている。	○	日常的に変化への気付きを意識し、時々に対応した計画の見直しを早期に行い支援に結び付けていくよう努めていく。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	継続的な支援の経過を見る為「医療・介護記録」また、日中の活動の様子は「活動内容」を記載しモニタリングを行っている。記録時に内容を考察し、早期の介護計画変更につながるよう努めている。申し送り時に伝達し確実な支援の継続に繋げている。	○	介護計画に添った記録、又計画を見直す上で十分活用出来る記録とする為に、意識した個別記録とし、全職員が考える力をつけていくよう取り組んでいく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護師による週1回の健康相談、緊急時の対応等時々に応じた医療連携体制をとっている。日頃より医療面、生活面など気軽に相談できる関係を築き、認知症高齢者の特色と家族の背景や状況を踏まえた上で適切な看護や処置を提供している。	○	重度化や終末期のあり方が本人家族にとって後悔のない穏やかなものとなるよう、事前あるいはその時々で家族・医師を含めた率直な話し合いが出来るよう連携体制をしっかりと確立させていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居前の生活がどのように社会と繋がっていたかを明確にし出来る限りの継続を支援している。公民館、図書館、美術館、理美容の出張、公共緑地、クリーニング、在宅時からの馴染みの市場などの利用多数。運営推進会議で協力要請の場も作っている。	○	更に入居者の意向、要望に応じて多様な支援に努めていく。また、地域参加の消防訓練後の消防からの指導やアドバイスを参考にし今後の防災に生かしていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	個々の意向や必要に応じて、理美容サービスの利用や福祉用具専門員に生活支援用具の相談、ボランティアによるアニマルセラピーや行事の協力要請をしている。徘徊高齢者対策として、早期発見、早期保護を目的としたネットワークシステムに登録し事前対策をしている方もある。	○	本人が求める他のサービスの把握に努め、活用の広がりを進めていく。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席して頂き、森の家の取り組みを紹介し助言を受けたり、センターで経験した事例を紹介して頂き、問題点に対する意見を伺う機会を持っている。	○	認知症の人を支える地域のネットワークの中でグループホームに、どのような活動が求められ、それを具体化していく為に何をしていくのか考え実行していく。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望が最優先である旨、入居時に説明し、安心して納得出来る医療を受けられるよう支援している。主治医変更の希望があれば、病院間の医療情報の迅速な伝達を行い、医師、家族、職員、訪問看護師、職員が情報を共有し、相互理解のもとで支援していく事を説明し合意している。	○	かかりつけ医と連携しながら、必要に応じ他科受診を行う事もある。今後も症状に応じ適した医療提供が迅速に行えるよう支援していく。
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接した協力病院の西野病院に物忘れ外来があり、知見の深い専門医による適切な薬の処方や生活面での関わり方など助言をもらえるようになっている。必要時にはいつでも相談できる医師がいる。	○	生活の中から認知症状の変化、行動障害などの周辺症状をしっかりと見極め専門医に情報を提供出来るよう努めていく。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間医療連携体制により訪問看護師との契約をし、週1回の健康相談日と夜間を含む常時、医療や栄養相談、急変時の訪問にも応じてもらっている。気軽に相談が出来る体制が出来ており、必要時には、傷処置や点滴など医療行為を医師との連携により行なってもらっている。	○	今後も情報交換をしっかりと行いながら医療支援を行い、緊急時にも迅速な対応が行なえるよう連携を築き上げていく。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院から退院に至るまで家族、訪問看護師と職員が、主治医との話し合いを蜜に行い、早期退院の流れを作っている。入院時に認知症の著しい低下がみられた方が、早期退院によりホームでの生活を早い時期に再開した事で、機能を取り戻し活動の賦活がみられた例が数件ある。	○	ホームでの生活がいかに本人の生きる力を高めるかを認識し、今後も経験を活かしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての基本指針を説明し家族から意向確認書ももらっている。更に本人、家族の意向の変化、取り巻く環境の変化など状況に応じた時々ホームが対応できる最大の支援を踏まえて関係者で話し合い、職員共通の理解としている。	○	家族にとっては入居者本人の心身の状態はもちろん、御自身の家庭の事情や心身の状態によっても意向が揺れ動く事もあると思われる。その都度方針の確認を行いながら関係者皆で最善の方向性を見出す努力をしている。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	管理者会議や全体会議の中で、ホームで対応出来る事と出来ない事を話し合う機会を持ち今後の変化に備え検討を重ねている。個々の状況に合わせて対応を変えていく柔軟なチームケアに努めている。スタッフの不安や思いにも目を向ける必要がある。	○	医療行為の限界や職員の介護力、家族の協力体制、他入居者とのバランスなどあらゆる事が想定される中で、介護、医療の両面から知識の積み上げに努め、重度化に備え適宜マニュアルの見直しを重ねながら職員間で考えを統一する努力を継続する。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えが必要となる場合は、本人の心身の変化も著しいと考えられる。その上に環境の変化を余儀なくされる為、介護計画に沿った援助の継続と心のケアが大切である。住み替え先への細やかな情報提供を行い本人の暮らしの継続を援助していく。	○	退去時の住み替えは無いが、入居時と同様、援助方法が継続できるよう、次の支援者へ、情報を伝達していき住み替えのダメージを小さくするよう働きかけていく。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権、接遇、個人情報についての研修は特に日常の支援の中で実践に活かせる内容とする為、グループに別れての討論、事例検討など工夫を凝らし知識の習得に力を入れている。年2回自己評価を行い、自らを振り返る機会を設けている。	○	実務で配慮が出来る職員の育成を継続していく。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	漠然とではなく具体的に内容を示し選択しやすい場面を作り、意見を聞き自己決定へつなげている。自己決定できない方は、どんな時に笑顔や楽しい表情が見られるかを日頃からアセスメントし、心地よい場面作りを心がけている。	○	認知症状や疾患の変化に伴い、好みや意思決定能力の変化が考えられる。その時々で見極めながら力に合わせて支援をしていく。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人家族情報によるバックグラウンドシート、特性個別シートの活用でその人を知り、家事活動やアクティビティ活動がその人らしさに繋がるよう支援している。活動時には、本人の意向に沿ったものであるか、問いかけや表情からも見極めている。	○	その方が一日をどう過ごしたいか、今行っている事が十分満足に繋がっているのかを見極め、明日に生かしていけるよう、職員が寄り添った介護を実践していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が落ち着く好みに応じた身だしなみを基本に、化粧や整髪、髭剃りなどに関心を持ち続けるよう支援している。理美容は訪問があり、髪型など本人が伝えられない場合は家族と話をし希望を伝えている。在宅の頃から馴染みの理美容店へ家族が同行することもある。	○	その方が安心して気分の良い状態で過ごせるよう若い時からの習慣に習い支援していく。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食入居者と職員と一緒に作った食事を共に食し団欒の一時を持っている。入居者に料理本から献立を決めてもらい買物をして料理する時もある。買物に行くと安かったからとメニューが変わる事もあり面白い。又季節の野菜をキッチンガーデンで一緒に育て収穫し献立に取り入れている。	○	食事は食べる事の楽しみはもちろんだが、懐かしい行事食や好物であれば会話も弾む。出来る事を持ち寄っての料理作りを行い、食の楽しみを感じてもらいたくさんの試みが続けていく。
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物に行き好きなおやつを購入し、午後のティータイムや夕食後のくつろぎの時間にそれぞれ楽しんでいる。疾患によりカロリー控える方も居るため適量の配慮をする必要はある。現在、喫煙希望者はいない。	○	嗜好の楽しみを満足させる事は気持ちが豊かになるものである。適量を考えつつ毎日取り入れていく。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時や退院時などに必要があれば排泄チェック表を付け排泄パターンを把握の上、その方に応じた適時声掛けをし、必要に応じ誘導を行っている。介護計画にあげて支援している。	○	継続的な支援を行い安心と清潔を守っていく。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食前に入浴される方、眠る前が良い方など希望を聞いている。きついので一日置きでよいとの方もある。体調をみながら入浴するが、出来ない日は清拭や足浴を行っている。入浴拒否には、時間をおいたり、職員が変わって誘うなどその時々、その人にあった工夫で対応している。	○	本人の意向に沿った支援を継続していく。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は外気浴や庭の散歩、体操など体調に合わせて体を動かしたり、趣味の活動や家事活動により生活リズムを整えている。眠れない方へは寝る前の入浴や足浴等工夫している。疾患など考慮しつつ、午後の安静時間の確保、散歩後の休息等、個別の支援をし夜間の睡眠状態の観察記録をしている。	○	年齢、疾患、習慣、その日の体調など考慮しながら、休息や睡眠が出来るよう支援している。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の生活歴や好みに添ったアクティビティ活動や家事活動を提供し支援している。台所仕事では料理、盛り付け、配膳、片付け、食器乾燥機入れなど得意な事が自然にその人に応じた役割となっている。好みや個性を大切にしながら喜びのある生活の支援をしている。	○	楽しみのある暮らしは意欲を高め生き生きした生活をしていく上でなくてはならないものだと考える。したいことを伝えられない方には本人の性格や職歴、生活歴を生かした楽しみを探していく。やってみようとする姿を見逃さず支援につなげていくよう努めていく。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃より能力に応じたお金を財布に手持ちされている方があり、その他の方も外出時には本人の財布から支払う、あるいは本人に手渡してから支払う等、その方に合った個別の方法で支援している。	○	日常的に買い物などでお金の支払いをするなど、継続的に支援していく。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭の散歩、病院カフェ・売店の利用、近隣スーパー・市場の買い物、デパート、外食、半日ドライブ（海・山）、図書館・美術館・博物館の見学等外出の機会をたくさん持っている。	○	外出は気分転換となるため、毎日取り入れている。少し元気がない方も、外出の誘いには積極的な返事が返ってくる。今後も本人の状態を把握しながら機会をたくさん作っていく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日帰り温泉、汽車で行った故郷の初詣、墓参りなど個々の希望に添った外出の機会を作っている。入居者、家族、職員が共に楽しく有意義な一日を過ごしながら親しみが深くなっている。お茶同好会やパーキンソン病友の会の出席など個別援助を行い有意義な時間を持って頂いている。	○	時候の良い時期に日帰り旅行を計画予定。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い、近況報告など入居者にあつた関わりで手紙を書いている。又頂き物のお礼や声の便りを電話で自由にかけて頂いている。幼なじみの友人との手紙のやり取りが続いている入居者もいて楽しみになっている。	○	継続した支援を行っていく。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問時遠慮なく過ごせるスペースでご自由な飲茶や話が出来るよう雰囲気作りをしている。要望があれば、居室や和室での宿泊も可能で、寝具類の用意をしている。又食事作りを一緒にしたり食材を買いに行くなど生活の中に入って入居者や職員との接点を楽しんで帰られる家族もある。	○	左記のような関わりを積極性を持って発信し支援の広がりを築いていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止マニュアルに添った拘束の無いケアを行っている。リスクマネジメント研修を行い職員へ具体的な説明資料を配布し理解実践に生かしている。安全の為やむおえない事態には家族への説明と同意を得た上で、経過を随時報告し継続の必要性を検討し早期の解除に努める事としている。	○	身体拘束に対する認識とその弊害を繰り返し反復し、正しい理解の下、安全安心に繋がるケアを実践していく。定期的な研修を実施していく。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜間のみ施錠。現在は帰宅願望が強い入居者があり、玄関と非常階段はチャイムで出入りを知らせるが、頼り過ぎる事無く常に職員で声を掛け合い所在の確認を行っている。又好みの集中できる活動や、役割、他者との団欒など工夫し訴えの軽減を図っている。	○	入居者一人一人の行動パターンを知った上で見守りの強化など安全に留意していく。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホッとするプライベートな時間を居室で過ごす方への配慮した見守りや、常時の見守りが必要な方など、認知や身体面での違いに応じた安全確保と、心の安定を図りながら、居場所や行動の把握をしている。常に職員同士で声を掛け合い所在確認を行っている。	○	その日その時の身体や精神状態の違いを考慮した安全管理によって安心した暮らしを支えていきたい。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類や手芸用品、大工道具は置き場所を決め、使用後は確実に元に戻すようにしている。使用時は、過度に危険を意識せず個々の出来る事に応じた使用をしている。薬品、消毒剤、漂白剤、洗浄剤は特に管理強化をし保管倉庫は施錠している。包丁は、流し台の扉に鍵をかけ保管している。	○	入居者の認知の低下や周辺症状などの変化を捉へ、その時々で早めの対応をして、危険の回避に努めていく。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成し、事故を予測し、慎重な行動をいつも取れるよう研修を行っている。事故発生時は、事故報告書を作成し、発生状況、考察、対策について検討し全員周知の上今後に活かしている。ヒヤリハット報告を基に問題点を探り、予測可能な自己の徹底防止を話し合った。	○	職員間で気付きを放置せず、その都度話し合いの場を設け、事故防止に努めていく。介護経験の長い職員や看護師からの意見を他の職員が謙虚に受け止め知識を深める努力をし、事故防止に繋げていく。定期的実践に活かせる研修を行っている。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、職員全員に熟知し徹底するよう指導している。緊急時慌てず対応できるよう。職員室の目に付きやすい場所に手順書を掲示している。消防隊による救急救命に関する講義と実技訓練を定期的に行なっている。勤務状況があるが、出来る限りの全員参加を促している。	○	緊急時、冷静にベストを尽くせるよう、イメージしてみて知識が不足している所は、専門職に学び克服しておくなど職員一人ひとりが意識を持ち取り組んでいく姿勢を引き出していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を中心に防災マニュアルが作成され目に付く所に避難経路、役割と行動、緊急連絡網を掲示している。定期的な非難訓練も行なわれ区の消防隊や、協力病院、地域の人も参加している。災害対策については、非常用食料の備蓄、避難先、職員の動きなどを確認している。	○	訓練したことが実際の災害時に活かせるかが重要である。定期的訓練だけでなく、日頃から入居者の現状に則した対策を考え合わせ、疑問点など出た場合関連機関に相談し指導を受け、備えておくことが必要と考える。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測されるリスクや状態変化に伴ったリスクの変化や増大に対し、対応策を家族と話し合い本人の不自由感を最小限に考慮しつつ安全の確保に努めている。現状では転倒に繋がるリスクを持った方が多い。話し合いの上、相互理解した内容について同意書を交わすこともある。	○	状態の変化には早い対応で臨み、納得のいく安全管理を継続していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックと共に、言葉による訴えに頼らず、表情や動作の中から異変の早期発見に繋げ早期対応を行なえるよう努めている。高血圧、糖尿病、心臓病など持病に対する病変の早期発見にも努め、その都度変化を記録に残し情報を共有している。	○	早期の気付きと対応がその後の経過に大きく影響する事を考えると、ちょっとした変化を見逃さないことがとても重要である。定期的医療研修の継続した参加や、書籍により知識を高める努力をしていく。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし入居者の薬の内容について職員全員が周知し正しい用法を守っている。分包し、服薬までの3度のチェック体制により、確実な服薬確認を実行し副作用など気になる症状があれば早期に主治医に相談している。	○	服薬による症状の変化や、副作用について観察し、適した治療に繋がるよう医師や看護師に確実に伝えていく。処方箋から知識を得るが、理解出来ないところをそのままにせず、医師や看護師から学び納得したうえで対応に臨むよう努めていく。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	本人の疾患からの援助と排便状態を知り食事、水分摂取、運動への配慮を基本とし、必要に応じた服薬コントロールを行ない、現在は順調に調整が行なわれている。	○	便秘による体調不良や気分不良、更に不穏悪化に繋がるなどの諸症状に留意していく。服薬だけに頼ることなく食事や運動での便秘の緩和に努めていく。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	協力病院歯科医師により月1回の指導を受け、日常的に朝昼夕、磨き残しや義歯洗浄のチェックを行い、個々人にあった声掛けや介助を行っている。又外出後のうがいを励行している。異常があれば早期の歯科受診と共に、予防の為の歯石取りを毎月行い口腔の清潔維持に努めている。	○	本人のその時に応じた必要なケアを把握し援助を継続していく。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、出来るだけ多彩な食材を使用し、摂取を心がけている。同法人の栄養士からの指導も受け、カロリーやバランスにも配慮している。水分摂取量については全員の水分チェック表を付け観察し、水分の確保に努めている。	○	今後も、安定した心身の維持と、食の楽しみ両面のバランスが保たれ満足されるよう、話し合いをしながら工夫し対応していく。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染防止マニュアルがあり発生時にはマニュアルに沿った対応を医師、看護師の指導の下行うようになっている。感染予防委員会の活動により、職員勉強会（インフルエンザ、食中毒、水虫等）も行い、予防についても実践で活かしている。	○	今後も発生させない為の予防の取り組みと、早期発見に努め、発生時には早期治療と感染の広がりを最小限にとどめるようマニュアルに添った正しい対応をしていく。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	実施者を決め、まな板・布巾・包丁等の殺菌漂白は毎日、冷蔵庫は一日置きに残り物処分、毎週土曜日に食材の整理と消毒を行っている。食器類は毎食事後、入居者と職員で洗い、食器洗い乾燥機で熱湯処理乾燥をしている。魚などの生物は出来るだけ当日購入し調理するよう心がけている。	○	職員一人ひとりが清潔や衛生についての必要性を理解し、意識を持って行動するようにしているが、実行のズレが無いよう、気付いた事はその場で注意しあって安全を維持していくことも話し合っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口に森の家の雰囲気に合わせて親しみのある看板があり、ドアには家族手作りの暖簾をかけている。又住居としての意識付けの為、入居者とスタッフが一緒に作った木製の表札を設置している。玄関回りには花や緑を絶やさずテーブルやベンチを置いて、くつろぎのスペースを作っている。	○	入居者や家族、地域の方の意見も聞きながら、親しみのあるホーム作りを行っていきたい。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりした台所で、出来る事を持ち寄り賑やかに食事準備がされている。馴染みの食器も多く、根菜類や果物は籠に入れておいている。思い出のアルバムや手芸道具等も居間に置き。季節の花を摘んで飾っている。ベランダのプランターに花や野菜を植えてミニ家庭菜園を楽しんでいる。	○	環境の設定を工夫しているが、入居者一人ひとりの快や不快の感覚に違いがある為、配慮が求められる。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いた和室や、居間、廊下にはひと休みしたり、気の合う方との一時を自由に過ごせるよう椅子とテーブルを設置している。テーブルには花を飾り、ちょっとした小物使いで落ち着けるよう工夫している。料理の本・旅行雑誌・作りかけの刺し子道具など。	○	家具の移動など環境の変化による、不穏などのダメージに配慮する必要があるが、一方では、入居者間のトラブルなどの問題や、身体機能の変化による必要性から移動等を行うこともあり、その時々で対応し居場所作りを行なっていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に、ご本人が使い慣れた家具や思い出の品、アルバムなどの持ち込みをお願いし、その方らしい居室作りにより安心して落ち着ける生活の場となっている。その方の生活暦を感じさせる物も多い。趣味活動で作った作品も飾っている。	○	周りを気にすることなく過ごせる居室は本人にとっても、家族にとっても大切な空間である。その人らしさが出た居心地の良い居室作りを本人、家族と話し合っ作っていききたい。
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の全居室、共用部の換気を始め日中も適宜に換気を行い外気を取り入れている。空調の調整は、外気温とのバランスも考えながら温度調節を行っている。臭いの強い生ゴミは衛生面からも早めの処理が必要な為、必ずその日の内に別棟のゴミ置き場に移動し処理している。	○	環境面、健康面からも換気や空調への配慮を継続して行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室の手すり、浴槽回りの滑り止めの設置、台所には入居者の身長にあわせて高さ調整を行った流し台を2台設置し、使用の際の入居者間の混乱を防ぐなど工夫しており、広さも車椅子対応が可能となっている。又心身機能の変化に応じ福祉用具の使用をしている。	○	今後も認知力や身体機能の変化に応じ検討し、安全の確保に努めていきたい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	少しの環境の変化でも思いがけない混乱や不安のきっかけになる事がある為観察し考慮している。又自立を妨げないようその方に応じた環境と活動の支援をしている。居室入り口には思い出ボックスや木の表札を設置し、ご自分の居室確認が出来る様工夫している。	○	職員が自分の考えのみに頼らず、他職員との意見交換をし多角的な視点から、本人のわかる力を導き出して、工夫し力を発揮できる生活を構築していきたい。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物は緑に囲まれ散歩や散策が日課となっている。又ホーム専用の畑の水やり、草取り、収穫と園芸活動を行なっている。ベランダや物干し場には鉢植えを置き、毎朝水やりし、成長を楽しんでいる。園芸用のじょろやスコップがいつでも使用できるよう用意してある。	○	広い庭のある環境の中で、四季折々の変化を楽しみ五感に働きかけていきたい。花や野菜などを育てていく過程で成長や収穫の喜びを味わい、又、押し花、フラワーアレンジメントなど関連した活動を通し生きる喜びにつなげていきたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

認知症であっても残存能力を発揮し、安心できる環境の中で、その人らしく楽しみのある暮らしを構築していく事を目指しています。ご利用者の個々の得意な事、興味ある事、楽しいと思える事を積極的に生活の中に取り入れ、脳機能の維持、改善、低下の遅延を図っています。必要な介護、疾患管理、行動障害の対応だけでなく、自己実現を可能にし、尊厳ある生活を目指していきます。また、ご利用者の社会性の継続や、認知症の正しい理解や啓発活動に取り組み、積極的に地域との交流を推進しています。